

「約束の虹」 山里 将之



みなさん、こんにちは！

貝塚聖書教会の山里将之です。

クリスマスが過ぎ、新年を迎える準備が始まっています。日本では、クリスマスが終わるとすぐ、お正月へと「衣替え」をしますので、皆さんお忙しくなされているのではないのでしょうか。

海外のキリスト教国などでは、お正月をはさんで1月の第一週あたりまで、つまり、冬休みの間くらいまでは、クリスマスシーズンとして過ごすので、お正月だからといって日本ほど慌ただしくはならない、と聞いた事があります。「衣替え」の必要がない分、

ゆったりと出来るわけです。うらやましいなと思う反面、日本では、お正月にはお正月の楽しみもありますので、これはこれで良いんだらうな、とも思います。阪南バイブルチャペルでは元旦礼拝の後に餅つきの計画がありますが、クリスマスの雰囲気とはちょっと違いますよね。12月26日の礼拝の後にはクリスマスの後片付けをして、お正月を迎える準備も出来ました。ご安心して、元旦礼拝、また、お時間があれば餅つきにもお立ち寄り下さい。

さて、日付が前後するようで恐縮ですが、オンラインクリスマスコンサートの案内を配っていた頃の事です。一軒一軒回りながらポストに案内を投函し、時々、手渡しで受け取ってくださる方もいて、とてもうれしく思いました。宗教というだけで警戒される事のある昨今ですが、教会の牧師が配る案内を喜んで受け取ってもらえるのは大変ありがたい事だなと思います。

そんな中、その日は突然の雨！ せっかく用意した案内を濡らすわけにもいけませんし、第一、ポストが濡れた案内でくしゃくしゃになっては、喜ばれるどころか迷惑をかけてしまいます。残念ながらその日は配布目標の半分もいかに断念。こんな日もあるんだなあ、と、ちょっとがっかりした次の瞬間、見上げた空には大きな虹！…私の Facebook を見て下さった方はもうすでにチェック済みかも知れませんね…ネタバレで恐縮です。神様の粋なはからいに思いがけず感動したひとときでした。

虹は、聖書では、特別な意味が込められている事があります。有名な、ノアの洪水の時がそうです。神様は、罪に汚れた世界を一度、洪水によって洗い清めました。洪水の後、もう二度とこのような事はすまい、と決心なさいました。箱舟によって救われたノアと彼の家族、箱舟に乗っていた動物たちを前に、祝福の約束、虹の契約を結ばれました。天と地を結ぶように、大空に美しいアーチを描く虹は、神様と人間、生きとし生ける生命とを結ぶ契約の象徴となりました。それはまるで、クリスマスの時に訪れる救い主、天の神と地に住む私たち人間を結ぶイエス様を象徴しているようでもありました。

日本ではもうすぐお正月になりますが、海外ではクリスマスシーズンはまだしばらく続きます。もしあなたが、イエス様をまことの救い主として受け入れるなら、毎日がクリスマス、救い主が天と地を結び、神様とあなたを結んでくださる喜びの日々となるのです。ぜひ、約束の虹を見上げて、イエス様をお迎え下さい！

わたしが地の上に雲を起こすとき、虹が雲の中に現れる。そのとき、わたしは、わたしとあなたがたの間、すべての肉なる生き物との間の、わたしの契約を思い起こす。大水は、再び、すべての肉なるものを滅ぼす大洪水となることはない。

聖書 創世記 9章 14-15 節

写真：雨上がりの虹！ 人生、晴れの日もあれば雨の日もありますが、神様は洪水の後にさえ、希望の虹を見せて下さるお方です！ 2021年12月27日

「クリスマスプレゼント」 藤井 貴



12月19日(日)は、11月29日付けの原稿で記載したアドベントの第4週目で、全国の教会でクリスマス礼拝が実施されました。わが阪南バイブルチャペルでも4本目の蠟燭に点灯し、午前のクリスマス礼拝、午後のクリスマス収録コンサートで、イエス・キリストの誕生をお祝いしました。さて、クリスマスにはクリスマスプレゼントが楽しみのひとつですが、今年は思いがけないプレゼントがありました。ひとつは上記クリスマスコンサートです。11月21日に貝塚聖書教会で収録した、バイオリン&ピアノの「デュオ高瀬」さんのコンサートをチャペル内のプロジェクターで視聴する予定でしたが、収録日に高瀬さんにコンサート当日にZOOMでチョコッと参加していただくことをお願いしたところ、わざわざチャペルまでご足労いただけることになり、収録演奏とともに、生で演奏を聴くことができました。収録でも非常に音の良い録音になっていたのですが、やっぱり生演奏は圧倒的に迫力があり、そのバイオリン&ピアノの音色に心が動かされました。(本収録は1月3日まで配信されます。貝塚聖書教会のHPをご覧ください。)

もうひとつのプレゼントは、そのコンサートに53年来の親友のT君が参加してくれたことです。中学で知り合ったT君ですが、その後も親交を続け、今でも年1回K君も含め、人生のいろんなことを語り合っています。そして、T君にクリスマスの意味について知ってほしいとずっと思っていましたので、コンサートに参加してくれたことは本当に感謝でした。

今年もクリスマスを迎え、私たちの罪を赦し、永遠の命を与えてくださる「イエス・キリスト」という最高のプレゼントを下された神様に感謝したいと思います。

今年もクリスマスを迎え、私たちの罪を赦し、永遠の命を与えてくださる「イエス・キリスト」という最高のプレゼントを下された神様に感謝したいと思います。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。ヨハネ 3章 16節

2021年12月20日

「クリスマスは教会で」そして「新年も教会から」 辻 喜男

今年はクリスマスと新年に合わせたように、コロナウィルス感染者が大幅に少なくなってきました。オミクロン株が広がりつつあるなか、油断せず、感染防止対策をとりながら、この機会に何か楽しく、うれしくなることが行われることは、社会的にも個人的にも大変意義のあることだと思います。

そんななかで今年は、教会で行われているクリスマス体験するのはいかがでしょうか。あなたに用意されているクリスマスプレゼントは、神の愛です。それはイエス・キリストの誕生によって明らかにされました。そしてこの神の愛を認め、受け取ることで、私たちの心の渇きがいやされ、満たされることが出来ます。教会のクリスマスは、この神の愛を喜び、感謝するための集まりです。

このように、クリスマスで神の愛を受け取り、この一年を終えれば、新しく迎える年も神の祝福に満たされる、と聖書は約束しています。そこでおすすめしたいのは、新年の「初詣」は教会にということです。

2022 年は元日(土)に元旦礼拝と二日(日)に新年礼拝を行います。教会では神の愛と守りを感謝することから一年を始めています。「あなた方は信仰により、神の御力によって守られている」(聖書のことば)、と約束されているからです。クリスマスにこの世界にいられたイエス・キリストが、その約束を保証しています。今年一年の締めくくりと新しい年のスタートは、教会から始めてみませんか。

(阪南バイブルチャペルのクリスマスと新年の集会案内はホームページでご確認下さい。また各集会はユーチューブでも同時配信されます。教会でもご家庭でもご都合の良い方法でご参加下さい。)

2021 年 12 月 13 日

「クリスマス…救い主のお生まれ、良き知らせをあなたとともに！」 山里 将之



みなさん、こんにちは！
貝塚聖書教会の山里将之です。

12 月に入り、クリスマスが近づいて来ました。キリスト教会にとって、救い主イエス・キリストのお生まれを記念する、とても大切な、そして嬉しい、喜びの季節です。

天地万物の創造主であられる神様が、私たち人間を憐れんで下さり、私たちを救うため、とりわけ罪とその結果である死の恐怖に勝利を与えて下さるため、ひとり子なるイエス様を与えて下さった。それがクリスマスです。

新約聖書の最初の 4 つの書物を「福音書」(ふくいんしょ)と言いますが、「福音」とは、良い知らせ (= Good News) という意味で、古代世界、聖書の時代においては特に、戦いにおける勝利の知らせ、戦勝報告、といった意味合いで使われることが多いことばでした。やがて、実際の戦争での勝利という意味だけでなく、罪と死の恐怖に対する勝利、キリストの勝利、そしてキリストを信じる者の勝利、そういった意味で、この「福音」= 良い知らせということばが用いられるようになり、イエス様の生涯を記した 4 つの書物が「福音書」と呼ばれるようになったわけです。

貝塚聖書教会では、コロナ禍にあっても、何とかして、このクリスマスの良き知らせの喜びをともに出来る方法はないかと考えて、オンラインでのコンサートを行うことにしました。Duo 高瀬(デュオ・タカセ)さんによるバイオリンとピアノの演奏とお証し…イエス様を信じるようになったいきさつや思いなどを「証し」(あかし)と言います…、聖書のお話しを、12/12-1/3 の期間限定で配信予定です。

阪南バイブルチャペルでも 12/19 に Duo 高瀬さんご本人たちをお招きしての集会を企画しています。期待し楽しみつつ準備を進めています。

また、案内チラシを用意し、地域の皆様にお届けして行きます。かつて私たちに良き知らせを届けてくれた先人たちから受け取ったこの良き知らせ。今度は私たちが、微力ではありますが、同じく良き知らせをお届けする思いで、励んでいきたいと思えます。お楽しみに！ 皆様おひとりおひとりに、この良き知らせ、福音の喜びが届きますように…。

良い知らせを伝える人の足は、山々の上にあつて、なんと美しいことか。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神は王であられる」とシオンに言う人の足は。

聖書 イザヤ書 52 章 7 節

2021 年 12 月 06 日

.....

感謝祭を祝って 黒田 朔



帰国後 10 年ぶりの感謝祭を次女の嫁ぎ先に招かれてお祝いしました。感謝祭は 1623 年信仰の自由を求めて新大陸を目指し清教徒たちが予測以上のきびしい飢えと寒さと病のために、約半数の百人ぐらいの仲間を失いつつ、迎えた初めての収穫を感謝したことが始まりで、七面鳥など定番の料理だけでなく、家の主人が感謝をささげ、テーブルには各自に感謝の聖句が置かれ、食事の後でお互いに読み、1 年の感謝を分かち合いました。TV のフットボール中継や賑やかな歓談だけで終わらず、今も一般のクリスチャンが自分たちの

信仰を子供や孫たちに受け継ごうとしている生きた信仰の姿を見せてもらいました。

6:3 イスラエルよ、聞いて守り行いなさい。そうすれば、あなたは幸せになり、あなたの父祖の神、【主】があなたに告げられたように、あなたは乳と蜜の流れる地で大いに増えるであろう。6:4 聞け、イスラエルよ。【主】は私たちの神。【主】は唯一である。6:5 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。6:6 私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。6:7 これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家で座っているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。

申命記 6:3-7

2021 年 11 月 29 日

.....

チャペルの窓 藤井 貴

アドベント前の 1 ヶ月

「アドベント」とは、11 月 30 日にいちばん近い日曜日からクリスマス前日までのこと。欧米ではこの期間、広場に露店が並んだり室内のデコレーションを華やかにしたり。クリスマスを楽しみにする光景が、あちこちで見られます。

阪南バイブルチャペルでもクリスマスの飾り付けを終え、今年は 28 日から始まるアドベントの準備を行いました。28 日の礼拝から、4 本だてのアドベントキャンドルを灯し、クリスマスまでの 4 週間、日曜日ごとに 1 本ずつ灯していきます。

さて、アドベントに入る前の話です。緊急事態宣言が解除され、休止されていたことが元どおりのルーチンとなりました。10月9日に義父を天国に送り、11月初旬は子供たちや孫と過ごすため関東に出かけました。さらには、チャペルの礼拝説教を10月31日と11月14日に担当することとなり、その準備を含め、久しぶりに予定をこなす日々が続きました。

説教の準備では、ローマ人への手紙1章を示され、久しぶりにじっくり読んで学ぶ機会を与えられ、感謝でした。その中に、

「神の目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造されたときから被造物を通して知られ、はっきりと認められるので、彼らに弁解の余地はありません。」(ローマ人への手紙 1章 20節)

とあり、神よって神のかたち(イメージ)に作られた人間には、神の永遠の力と神性が「はっきり認められる」と言われています。また、聖書の最初のことは、

「はじめに神が天と地を創造された。」(創世記 1章 1節)

であり、神が創造された宇宙を始めとするすべての被造物を見ると、神が創造された作品の素晴らしさと創造主である神の存在を認めざるを得ません。

自分が生を受けたのも、自らの過去・現在そして未来も神の御手の中にあり、生命も、家族も、そして社会で起こってくることも、創造主なる神の御手の中にある、創造主なる神がきっちりと支えてくださっていることを覚えさせられました。感謝。

2021年11月22日

.....

名前の意味について その二 辻 喜男

名前の意味についての続きです。今回は「辻」について考えます。辞書によれば「辻」と言う漢字の意味は、四方からの道が集まり、行き来する人が出会いと分かれを繰り返す交通の要所であり、十字路、四つ辻ともよばれる、と説明されています。私の先祖がどういうわけで氏として「辻」を選んだのかは、今や知るよしもありませんが、ただ親の代から受け継いだ氏ですから、無意識に「辻」を名乗ってきました。

ところが三浦綾子の小説「氷点」とその解説書を読んで、この小説の主人公に「辻口」という名前をつけたことに、著者三浦綾子のある強い意図が込められていることを知りました。「辻口」という名前に込めた意図は、人間関係で悩み苦しむ人々の現実と、その現実からの救いを提示することでした。

「氷点」に登場する人物すべてが、その心の内に「くろぐろと不気味に息づいて見える」ものを抱えながら、愛憎無限の人間関係にうめいています。それぞれが人生の辻(十字路、四つ辻)に立って、道に迷い右往左往しているのが登場人物の現実です。

しかしこの小説はドロドロした人間の現実を描くだけではありません。「辻口」という名前によって、この小説のもう一つの主題である、キリストの十字架による救いがあることを示しているのです。

「辻」という文字そのものが、神の救いを暗示しています。「辻」は「十」と「しんによろ・しんにゆう」からできています。「十」は文字通り十字架であり、「しんによろ・しんにゆう」は道や歩くことなどを表しています。ですから「辻」にはキリストの十字架による救いと、その救いに至る道を指し示しているのです。また「口」はその救いに至る入り口を表しています。作家三浦綾子はそのデビュー作である「氷点」によって、キリストの十字架による救いと、そこに至る道があることを読者に示そうとしたのです。

「辻 喜男」と名乗ることで、氏名そのものがイエス・キリストの十字架による救いと喜びを表していることに、ただならぬ驚きと感謝をおぼえます。そして「喜寿」を目前にして、今なお道半ばにすぎないことを問われている日々です。

2021年11月15日

.....

時が流れる.. 黒田 朔



2年ぶりのハワイへの里帰り。どこへ行っても、何をしても懐かしい。中でも20年間続けていた夫婦での朝泳ぎは一気にハワイへと引き戻してくれた。波の高さと久しぶりのため、泳ぎは形だけではあったけれど、波も空も、ダイヤモンドヘッドから昇る朝日も風も、群れて飛ぶ鳩、砂浜を歩く年寄り、若いカップルが走る。シャワーをしているサーファーに話しかける仲間まで普通。ただ、その中に私たちの顔見知りはいなかった。同じ営みを次の世代が同じように引き継ぎ、時は流れる。自然の美しさ、人の温かさ、何より、すべての良きものの

造り主のみ名を喜び、楽しむ心と信仰が当たり前のようにバトンされていきますようにと祈りました。時は流れる..。

詩篇 19 篇

19:1 天は神の栄光を語り告げ大空は御手のわざを告げ知らせる。

19:2 昼は昼へ話を伝え夜は夜へ知識を示す。

19:3 話しもせず語りもせずその声も聞こえない。

19:4 しかしその光芒は全地にそのことばは世界の果てまで届いた。神は天に太陽のために幕屋を設けられた。

19:5 花婿のように太陽は部屋から出て勇士のように走路を喜び走る。

19:6 天の果てからそれは昇り天の果てまでそれは巡る。その熱から隠れ得るものは何もない。

19:7 【主】のおしえは完全でたましいを生き返らせ【主】の証しは確かだ浅はかな者を賢くする。

2021年11月08日

.....

「父の残してくれたもの」 山里 薫

「お父さんがイエス様を信じて、天国に行くってお祈りをして大きな声でアーメンって決心したのよ!!」母からの涙の電話を受けたのはこの10月の初め。この10月は父と母の結婚50周年記念日でもあり、貝塚から、私達は休暇をとってお祝いに行く予定だった。



いつも「アーメン、アーメンって言ったって何になる。」キリストに反抗してきた父。「うそ、、」私の心の声。食事がとれなくなり、在宅医療になった父への母の切なる願いはただひとつ。人間はやがて死に必ず別れの時がくる。「地上で50年一緒に生きたたのだから、天国も一緒に行きましょう。」50年もの母の長い長いを神様は聞いてくださり奇跡がおきた。あの父が、、アー

メンと十字架を信じ永遠の命をいただきたいとうなずいたのだ。

私達が予定した休暇を前に父が吐血したとの連絡を受けた。私達夫婦、小学生の娘2人、ペットを車にのせて夜中の高速を走った。「間に合って！私も父の告白を聞きたいの、」東京の実家については夜中の2時。そしてすぐ、私の夫、義理の息子である山里将之牧師に導かれ家族の見守る中で父は洗礼にあずかった。みんなで一緒に天国に行くね。と呼びかける中で、横にいた娘も「あんみも天国行くよ。」と思わず声をかける。みんなで天国の再開を約束して賛美歌を歌った。

それから、3日間、私は父の隣で泊まり込みながら父とたくさん話しをした。子供のころに連れて行ってもらった動物園の思い出や喧嘩したときのこと。感謝。そしてこれからのこと。残される母のこと。意識の朦朧としている中で時々目で訴えながら父は聞いてくれていた。小学校の娘たちもおじいちゃんのために祈りしたり、賛美をしたり。3日たって家族に囲まれ、天に旅立った。明日は山里牧師の司式のもと告別式を行う。

主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒の働き16章31節

母と私はこの聖書のことばが真実だったことに驚くような神様の御業を見せていただいた。母は結婚50周年記念、高価なお祝いよりも、父が家族に残してくれた天国への希望という何にも代えがたい最高の贈り物を受け取ったと感謝をしている。

@ 写真↑ 父が愛した景色:東京都足立区北千住近く、荒川の河川敷

2021年10月31日

父を天に見送って 藤井 由美子



「すべてのことには定まった時期があり、天の下のすべての営みに時がある」
「神のなさることはすべて時にかなって美しい。神はまた人の心に永遠を与えられた。」伝道者の書 3章1節、11節

2021年10月9日(土)に91歳の父が天国に旅立ちました。

14年前に母が天に召されてから神戸の実

家で一人暮らしをしていた父が8年前に脊髄梗塞で下半身が麻痺し、歩くことも、立ち上げることも、排泄も全くできなくなりました。

半年間の入院、有馬温泉病院でのリハビリの後、もう自宅で一人では生活できなくなったので施設に入所することになりました。実家は六甲山の裏側の緑豊かなところにありました。まずは実家の近くで施設を探しましたが、通うのに疲れ果てていました。そんなとき自宅マンションの隣に老人ホームが一年前に新築しているのを思い出し見学に行くと、施設も新しくまだ空きもあり、何より入居者の皆さんが笑顔で過ごしておられるのを見て「ここだ！」と思いました。一つ気になったのは緑の豊かな六甲山から緑の少ない大阪の真ん中に移住することを父が納得できるかと言うことでした。祈りながら父にどうするか聞いてみると「行く」と二つ返事でした。早速手続きを進め、父は私たちの文字通り隣人になりました。それから毎日朝刊を父に届けるのが私の日課になりました。

疲れて父のところにいくのがしんどい時もありましたが、行くと笑顔で迎えてくれ、帰りに必ず「ありがとう」と手を挙げてくれました。施設のスタッフさんにもおどけたりして、下半身麻痺も「痛みが無いから良かった」と前向きに捉えていました。

気候の良いときは近所を車椅子を押しながら散歩したり、ハルカスや海遊館に妹と三人ででかけたりしました。コロナで面会が禁止されている時は1階のカフェでコーヒーを飲んでいる時を見計らって窓から手を振ったり、新聞だけは毎日短い手紙を付けて届けていました。

元気そうにしていた父ですが9月半ばから全くご飯を食べなくなり、栄養剤をкаろうじて飲んでいました。9月の終わり頃には看取り介護になり、施設の方からどんどん会いに来て下さいと言われ戸惑いながら会えることを喜んでました。黒田先生ご夫妻に面会していただき、先生が私に「お父さんがアーメンと言いやすいお祈りを由美子さんがして、その後救いのお祈りを私がします」とおっしゃって下さいました。そして父に先生がアーメンはその通りという意味ですからそう思ったらアーメンと言って下さいねと教えて下さり、私は父に育ててくれたこと、病気でも前向きでいて尊敬できることを感謝してるとお祈りで父に伝えることができました。父は黒田先生のお祈りにもうなずいていました。

その6日後山里先生ご夫妻も訪ねてくださり、「お会いできて嬉しいこと、天国で藤井のみんなと会えることを確認してくださる」と、またうんうんとうなずいていました。その1時間後、父は本当に眠るように穏やかに魂も心も体も平安のうちに天にひきあげられました。

その穏やかな顔は神様を信じて天に召されることの幸いを証していました。

隣人になって7年間、父と濃密な時間を神様が備えてくださり、導いてくださったことを心から感謝しております。

2021年10月25日

.....

名前に意味があった (一) 辻 喜男

自分のことで恐縮ですが、私の名前は「辻 喜男」と書いて「つじ よしお」と読みます。

スマホで「喜男」を検索すると、「喜」は「明るい」「ユーモア」「幸福、祝福」のイメージであり、「男」は男らしいイメージがありますが、運勢はあまり良くないと言うことです。

しかしこの名前を持つ人すべてが、イメージ通りの性格で、運勢が悪い人生を送っているかはまた別の問題です。全国で「喜男」と名乗る人が、どれほどおられるかは知りませんが、私自身はこの名前と七十年以上付き合ってきて、大いに満足しています。特に「聖書」を読むようになって、「喜男」と言う名前には、神の祝福が込められていることを教えられました。「喜男」は文字通り「喜ぶ男」また「喜びの男」です。

人間が喜び、その喜びを分かち合うことは、運勢の善し悪しとは関係なく、すべての人間に与えられて



いる神からの祝福です。聖書の教えは運勢や運命に左右されません。すべての人間に神の「喜び」が与えられているからです。聖書はこう言っています。「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。」聖書は私たちに「喜びなさい」と命じていますが、その喜びは「主にあって」の喜びであると教えています。「主にあって喜べ」とはどういうことでしょうか。

「主」とは神のことですから、神が私たちと共にいて下さる喜びと、神を通して与えられる喜びのことです。

神と共にいて下さると言うことは、たとえばこのように考えることが出来ます。私たちは生きる中でさまざまな問題にぶつかります。しかしそんな時、最高の頭脳と人格を持つ人が、ある時は医者や看護師となり、ある時は弁護士となり、ある時は教師となって、相談相手になり、一緒に解決のために働いてくれば、私たちは大きな安心と喜びを味わうことが出来ます。そのように私たちのことを親身になって考え、働いてくれる神に信頼を置くことが「主にあって」与えられる「喜び」の根拠でもあります。

私の両親はクリスチャンではありませんでしたし、親戚にもクリスチャンはいません。どういうわけで「喜男」と名付けられたかは、聞く機会もありませんでしたが、聖書の教えにそった名前が与えられていることを喜んでいました。ところで私は来年の誕生日で「喜寿」を迎えます。どんな境遇に置かれても「主にあって喜ぶ」年でありたいと祈っています。

次回には「辻」を取り上げ、神から与えられている喜びの確かな証拠について書きたいと思います。

2021年10月18日

.....

「納骨式」 黒田 朔



義姉の納骨式のために親戚がホームタウン・箱の浦に集まった。先立った兄を欠いた姉弟が3人と夫々の子供たち、従姉弟が3組の懐かしい顔ぶれが二世代会集した。近況報告と昔話がテーブルの上を飛び交い、驚きと笑いが食卓の上を交差する。

納骨式ではその懐かしく、うれしい雰囲気そのまま姉のお骨を収めた墓標を包み、先に収められている祖父母まで一緒になって、黒田家リユニオンとなった。天国でも義姉を迎えて親子二世代会集が歓迎会でも開いているに違いない。

牧師の私が司式、讃美歌はカリフォルニアで牧師をしている甥っ子がギターでリードする。納骨式はまるで地上と天国のリユニオン。

墓標を見ると刻銘できるあと4人分。このスペースは私たちのリザーブシート。悲しみと空しさの死が慰めと希望に席を譲る…キリストの復活に支えられるありがたさ。3日間滞在した妹親子が帰り、戻った静けさの中で想う。「イエス様を信じてよかった、ほんとに…」

2021年10月12日

.....

「中秋の名月」…神様の芸術品！



皆さんこんにちは！ 貝塚聖書教会の山里将之です。

9月26日の日曜日のメッセージでも触れたことなんです。その前の火曜日、日付で言うと9月21日、今年の「中秋の名月」でした。娘たちとともに、近くの小高い住宅街(東山という場所)まで、お月見のドライブ。いや、見事でした。

「へー、クリスチャンも、お月見するの？」

たぶん、教会のイメージと違うなあ、とか、詳しい方でしたら、日本のお月見と偶像の関係を気になさるかも知れません。もちろん、月を拝むわけではありません。おだんごをお供えするわけでもありません。

…もともと、おだんごが好きなクリスチャンはたくさんいます…。そうではなく、この世界を創造された神様の素晴らしいみわざを思い、神様を心から喜び、感謝するのです。

そして、この偉大な芸術品の作者である神様は、あの美しい月よりも、夜空の星々よりも、私たち人間を、あなたを、かけがえのない尊い存在として見てくださっています。

あなたの指のわざである あなたの天

あなたが整えられた月や星を見るに

人とは何ものなのでしょう。

あなたが心に留められるとは。

人の子とはいったい何ものなのでしょう。

あなたが顧みてくださるとは。

…詩篇 8:3-4

空を見上げたり、大自然の素晴らしさに感動した時、ぜひ、それらを造られた作者がおられるんだ、という事に思いを向けてみてください。その偉大な作者が、あなたをも造り、愛し、導き続けて下さっている事、「わたしにとって、あなたは月や星より大切だよ」と語りかけてくださる事に、心をひらいてみて下さい。神様の喜びが満ち溢れますように…。

写真:中秋の名月。東山にて。

2021年10月03日

.....



阪南バイブルチャペル・カフェチャペルのブリューワーズです。

『ブリューワーズ』という言葉をご存知でしょうか？日本ではあまり聞きなれない言葉ですが、コーヒーを抽出するモノや人のことを『Brewers(ブリューワーズ)』と言います。耳なじみのある「パリスト」は、エスプレッソの本場イタリアで生まれた言葉で、パリストとは「パールでエスプレッソを抽出する人」の事を主に指し、「ブリューワーズ」はエスプレッソ以外のコーヒー(レギュラーコーヒー)を抽出する人を指します。カフェや喫茶店でお客様にコーヒーを入れるプロだけでなく、おうち

で家族や友達・自分のためにコーヒーを入れる人も「ブリューワーズ」なんだそうです。カフェチャペルのコーヒーは、生豆を購入、自家焙煎し、毎回2種類のコーヒーを提供します。ぜひ一度ご賞味ください。100円で何杯でもお飲みいただけます。緊急事態宣言解除後の10月9日から再開予定です。

カフェチャペルは、教会の礼拝になかなか行きにくいと考えておられる皆さまは大歓迎です。また、日頃の悩みやキリスト教に関する疑問等、皆さんが思っておられることをお話しいただける場です。毎週土曜日午後2時から。

10月30日にはオルガンユニット・ルミエールヴォワレによるミニコンサートを予定しています。

2021年09月26日

チャペルの窓 辻 喜男



聖書が語る「老い」と「死」への備え

私たちの人生は、一人ひとりみな違います。しかしみなが共通して迎えなければならないことは、老いと死の現実です。ただ老いについては、知恵と工夫によってある程度進行を遅らせることが出来るかもしれません。しかし死の問題はどうすることもできません。

聖書も老いと死の現実を次のように記しています。

「私たちのすべての日は、あなた(神)の激しい怒りの中に消え去り、私たちは自分の齡(よわい)を一息のように終わらせます。私

たちの齡は七十年、健やかであっても八十年。そのほとんどは、労苦と災いです。瞬く間に時は過ぎ、私たちは飛び去ります。(旧約聖書 詩篇 90 篇 9 節～10 節)

私たち現代人の齡は、「詩篇」の時代より十年以上延びているかもしれませんが、労苦と災いの中で飛

び去るように終わる現実、今も変わっていません。

このように見てきますと、私たちは老いと死の現実、ただ黙って耐えるだけでしょうか。聖書は確かに、老いと死に対する人間の無力さを語っています。しかし他方、高齢者の尊厳と死への勝利についても語っているのです。人は神によつていのちを与えられ、そのいのちは神によつて支えられていることを認めれば、老いと死のみならず、人生に対する見方が一変します。人生の価値を能力や仕事だけに置けば、高齢になり成果が上げられなくなると、人生の意味がなくなります。しかし神は、人間の存在そのものに価値を置きます。生かされ存在していること自体に、私たちに対する神の意志と目的があるからです。私たちが神の意志と目的を認めて、高齢期を過ごすことが出来れば、労苦と災いや死も、神の計画の内にあることを受け止めることが出来ます。それは死で終わらない天国の約束につながっているからです。天国の約束を信じ、神のもとに帰ることのできる人は、高齢期のさまざまな思い煩いから解放されます。

聖書はこのように約束しています。

「胎内にいたときから担(かつ)がれ、生まれる前から運ばれた者よ。あなた方が年をとつても、わたしは同じようにする。あなたがたが白髪になつても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ、わたしは運ぶ、背負つて救い出す。」(旧約聖書 イザヤ書 46 章 3 節～4 節)

「わたし」と訳されている神は、人をその誕生前から見守り、両手で支え歩かせてくださり、さらに高齢になり歩けなくなった時には、背負つてともに歩んでくださる、と約束されているのです。神は高齢者を、高齢者でないといわれない豊かで満ち足りた日々を招こうとしていることを感謝したいと思います。

@ 写真上 80 歳以上でないとしたらあかん集会…より

2021 年 09 月 20 日

長寿祝いへの提案

黒田 朔



今月は「長寿者への祝福の月」。どんなお祝いを送ればよいか…と頭をひねり、結局は「やわらかいお菓子かお饅頭」というところで落ち着きます。しかし、今日、週報の「分かち合い」コラムに「長男が 50 歳の誕生日に、自分が生まれた時のことを教えてほしいと言ってきました。

…ずっと手元に置いていた母 子手帳や育児記録、写真、幼稚園の卒園 アルバム……等々を整理し、当時を思い出しながら送りました。改めて神様の恵みと教会の皆さんの祈りのうちに生まれ、

ここまで守られたことを感謝しました。」と T 家からの分かち合いを読み、うれしくなり、考えました。

長寿のお祝いにお茶菓子も悪くはないけれど、「おじいちゃんやおばあちゃんのお話を聴く」というのはいかがでしょうか。夕食の後に「おじいちゃん、おばあちゃんがあんたたちの年頃だった頃はね…」と食べ物や遊び、当時の流行、そして、おじいちゃん達の夢を話す。

もし勇気を出して失敗談やロマンスをありのまま話せば、子や孫はジジババを見直し、ジジババは若返り、ファミリー関係向上間違いなし。遠距離やコロナで集まれないのなら、今流行のリモートで試みてはいかがでしょう。その結果を分かち合うなら、きっと効果は倍増するでしょう。

2021 年 09 月 13 日

みんなで「いただきます」。山里将之

皆さんこんにちは！ 貝塚聖書教会の山里です。

季節は秋を迎え、食べ物がおいしくなる頃ですが、食卓を囲む楽しさも、このコロナ禍の中、久しくなってしまった方々も少なくないのではないのでしょうか。本当に早く、このコロナの問題が解決しますように。教会員一同、心を合わせてお祈りしています。

ご存知の方も多いと思いますが、私たちクリスチャンは、食事の前に、神様に感謝し、ともに食卓につく人々の祝福を願ってお祈りをする習慣があります。クリスチャンが少ない国ですと、日



本もそうですが、特に子どもたちの間では、恥ずかしくなったり、時にはからかわれたりする事もあるかと思いますが、でも、とても大切な習慣だなと思います。

日本には、「いただきます」の習慣がありますね。人によっては手を合わせるかも知れませんが、この習慣の起源については私は良く分かりませんが、想像するに、生産者の方々への感謝と、食料となってくれた生命への弔い、大自然のいとなみへの畏敬の念が込められているのかな、と思います。大変素晴らしい習慣だと思います。

クリスチャンの食前の祈りは、この日本の「いただきます」の習慣に、「神様に感謝し、ともに食卓につけてくれた皆さんの祝福を願って」という思いがプラスされたものだとして理解して頂けると、ああ、クリスチャンって、そうやって「いただきます」をするんだなあ、と感じて頂けるのではないのでしょうか。

目には見えないけれど、神様もいっしょに、この食卓についておられる。たとえ「おひとりさま」(もう古いことばになりつつありますね・・・)であったとしても、あなたの向かい側、あるいは側に、イエス様が同席くださっている。そんな思いの中で、みんなで「いただきます」。

その喜びが、本当に早く、回復されて行きますように。重ねて、コロナの解決と皆様の護りを心から願い、お祈りしています。

写真↑：家族でたこ焼き。大阪にも馴染んで来ました！

2021年09月06日

.....

「教会音楽夏期講習会の恵み」 藤井 由美子

2021年8月19日、20日に福音交友会の多くの牧師先生のご出身の神学校、聖書宣教会のオンライン教会音楽夏期講習会に参加しました。2017年に夫が60歳になり仕事の内容が変わったので、私も夫を支える主婦の現役を終え、この講習会に一人で参加しています。去年はコロナのために中止でしたが今年はZoomでの開催になり、とても嬉しくて楽しみにしておりました。



学びも素晴らしいのですが、食事や休憩時間に全国から集まった音楽で奉仕をしておられるクリスチャンの姉妹がたいろいろお話できるのも感謝です。

今回の講習会で教えられたことは「神様の言葉である聖書の言葉をしっかり聞くことが礼拝の中心であること。賛美は祈りであり、神様への人からの応答であること」

です。今は中々集まれないですがどんな形で礼拝しても「聖書を聞くことが一番！」と教えられました。

午後の分科会ではオンラインでオルガンのレッスンを受けました。オンラインのオルガンレッスンは初めての私は30分間ドキドキしていましたが、先生は慣れておられ丁寧に指導くださいました。課題曲にBWV639「私はあなたを呼びます、主イエス・キリストよ」を選びました。

先生が最初に「元になっている讃美歌を賛美してみて」とおっしゃられ、若干焦りましたが、オルガン練習の時弾くことばかりに気が走りますが、コーラル前奏曲の奏楽も賛美なんだと改めて教えられました。その後この曲は祈りの曲でペダルでは胸をどんどん叩いて嘆きながら祈っていることをあらわしていること、左手の音型は人が頭を垂れて祈っていること表していること、右手のメロデーはずっと繋いで弾くことで祈りの言葉そのものを表していることをご指導いただきました。今までは単に楽譜通り弾いていた自分を示され、目から鱗が落ちました。

一年に一度ですがこのような学びの時を備えてくださる神様に心から感謝です。

2021年08月31日

『神様のファインダー』 辻 喜男



1945年(昭和20年)に生まれた私は、今年で76歳になります。太平洋戦争が終戦を迎えてからの76年と同じ年月になります。今や戦後生まれが、私を含めて人口全体の八割を越えているということです。この世代には戦争の「記憶」がありません。戦争被害者の高齢化とともに、その悲惨な経験をお聞きする機会が減りつつあります。しかし最近、戦争の悲惨さを伝える一枚の写真に強く心が打たれました。アメリカ軍の従軍カメラマンだったジョー・オダネル

が、終戦直後の長崎で撮影した一枚です。さらにこのカメラマンの手記と、多くの写真が一冊の本にまとめられていることも知りました。その本は写真・ジョー・オダネル、編集・坂井貴美子による『神様のファインダー』(発行・いのちのことは社フォレストブックス)です。

ジョー・オダネルは、アメリカ軍の従軍カメラマンとして終戦直後の日本で、なかでも広島、長崎での原爆の悲惨さを多くカメラに収めました。その中に「焼き場に立つ少年」と呼ばれる一枚があります。この写

真は、数年前カトリックのフランシスコ教皇が、「戦争のもたらすもの」というメッセージとともに世界に紹介され話題になり、またテレビでも、この写真についてのドキュメンタリー番組が放送されました。この写真を撮影した時の様子を、オダネル自身が次のように回想しています。

「長崎市内の小高い丘から、下の方で白いマスクをした男たちの作業を眺めていると、そこに十歳ぐらいの少年が歩いてきました。彼はある重大な目的があつてこの場所に来たのです。彼は幼い弟をおんぶひもで背負い、直立不動の姿勢で男たちの作業を見つめていました。裸足で真一文字に口を結び、鼻には鼻血を防ぐためか詰め物も見えます。背中の弟はすでに亡くなっており、頭も手も後ろに垂れ下がっています。少年はその場に五分か十分立っていたでしょうか。やがて白いマスクの男たちが近づいて、背中の男の子を受け取り、ゆっくり葬るように、焼き場の熱い灰の上に横たえました。次の瞬間、まばゆいほどの炎が舞い上がり、少年のまだあどけない頬を赤く照らしました。真っ赤な夕日のような炎が鎮まると、少年はくるときびすを返し、沈黙のままその場を去っていきました。」(参考・上記『神様のファインダー』)

自分も被爆したであろう少年に、さらにこれほどまでに過酷な経験をさせた戦争の実相を、この一枚の写真は黙々と訴えています。

ジョー・オダネルは、1922年アメリカ・ペンシルベニア州に生まれ、家族や親戚もともに敬虔なカトリック信者の家庭に育ちました。1945年占領軍のカメラマンとして来日、広島、長崎をはじめ各地の空襲の被災状況を記録しました。1946年帰国後除隊し、1949年からはアメリカ情報局に在籍し、ホワイト・ハウス付きのカメラマンとして四代の大統領に仕えました。それでも彼は日本で撮った写真を40年以上、心に残った癒しがたい傷のために直視することが出来ず、トランクに閉じ込めていました。しかし1989年のある日、ケンタッキー州で広島や長崎で被爆した人たちの鎮魂のために造られた彫刻像を目にして、自国が投下した原子爆弾の事実、深い悲しみと激しい怒りを覚えました。その時以来、彼はかつて見たことを決して忘れてはならない、彼らの死を無駄にしてはならない、という強い思いを抱き、原爆投下は間違いであった、と公言し反戦、反核の活動を展開するようになりました。写真を閉じ込めていたトランクを開け、日本とアメリカで写真展、講演会などの活動を行いました。そして日本での写真展で知り合った、クリスチャンの坂井貴美子と結婚、2007年85歳で亡くなるまでの14年間、夫婦で反戦、反核の活動を共にしました。坂井貴美子はジョー・オダネルとの出会いが与えられ、二人で同じ目標をめざした人生を歩ませてくださった神に感謝しつつ、今も亡き夫の遺志を継いで各地で写真展を開催しています。

2021年08月23日

「土は買う？」 黒田 朔

阪南バイブルチャペル(HBC)がある阪南市は母校「鳥取中学校」があるいわばマイホームタウン。戦後、食べ物のない時代に両親が開墾をしたこともあって、中学時代バレーボール部と園芸部とに入部、取り組んだのが花づくり。チャペルの住人となった今、生け花や植木鉢の水やりが仕事となり、一つ二つと増える植木鉢をまとめることにしました。以前、花壇づくりと言えば、庭を掘り返し、種や球根を植えたのが、HBCの敷地は全面コンクリート。初めてプランターを求め、指示通り、赤玉土、腐葉土、桐生砂・なる土を買いこみ、息も絶え絶えの草花を植え替えました。かつて鳥中時代の花壇づくりでは、鍬で掘り返していた土を、今は、コーナンで買い求め、カードで代金を払います。



「湯水のように浪費するな」と言われていた水をボトルで買うのにこの間まで抵抗していた自分自身がまた一步、新しい領域に足を踏み入れたと思いながら、苗売り場を歩き、プリムラ・オブコニカ、アスター、ペチュニアなど昔変わらぬ名前のあるのを見て、ホッとしたことでした。

「人はみな草のよう。その栄えはみな野の花のようだ。主の息吹がその上に吹くと、草はしおれ、花は散る。まことに民は草だ。草はしおれ、花は散る。しかし、私たちの神のことは永遠に立つ。」

イザヤ 40:6-8

2021年08月16日

たき火のある風景 山里将之



皆さんこんにちは！ 貝塚聖書教会の山里です。

大阪では緊急事態宣言が再度、発出となりました。コロナの問題を神様がすみやかに解決してくださり、皆様おひとりおひとりの健康、安全、安心な生活が護られますように。心からお祈り申し上げます。

こうした状況のなかではなかなか、出かける事は難しいですね。コロナ以前であれば、夏休みのこの期間、海に、山に、お出かけになさっていた事と思います。教会でも、本来であれば、キ

ャンプ(テントを張るアウトドアキャンプではなく、施設を借りて行われる、合宿のようなもの)が開催される、楽しい時期だったはず、なんです、自粛が続いています…本当に、コロナ以前の日常が早く戻ってくると良いなあ、と願っています。

キャンプではよく、たき火をします。キャンプファイヤーですね。みなさんは、たき火はお好きでしょうか。薪の香り。ぱちぱちと小さく爆ぜる炎の音。静かにしんみり過ごすもよし。フォークダンスやレクなどで楽しく盛り上がるもよし。たき火の周りでは、何か不思議な高揚感と安堵感とが同時に感じられるような気が

します。

聖書の世界、その時代、たき火はごく日常の風景でした。電気がないので、まず日常生活としての灯りとして火が焚かれていましたし、冬場ではもちろん、暖を取るためにたき火が用意されました。漁師たちが取ってきた魚を浜辺で料理する時、羊飼いたちが夜番をする時、長旅に出かける時……たき火のある風景はごく当たり前、そこかしこに見られました。

日常の火の用い方の他に、宗教上の大切な儀礼としても、火が灯されました。祭壇で献げ物をささげ、神様に感謝し、立ち上る炎と煙とが、人々の祈りとともに天に届く光景。祭壇の火をたき火と呼んでいいかどうかはいろいろご意見がある事と思いますが、ともあれ火が信仰のシンボルとしても用いられていた事は確かな事です。

聖書には、神様を「光」と表現する箇所が大変多いですね。先ほど触れましたが、聖書の時代、「光」というのは、電気の事ではありませんね。太陽の光。月や星の光。そして、火の光。それが、聖書の時代、人々が見ていた光です。

暗がりの中に光が灯された時の安心感。寒い時には暖めてくれる嬉しさ。たき火を囲んでいる時に感じる心地よさ。光なる神様との出会いを本当に経験する時、私たちはそんな喜びを味わわせて頂けます。神様の光に照らし出された私たち自身もまた、新たに光を灯す者として用いられていきます。

「あなたがたは以前は闇でしたが、今は、主にあつて光となりました。

光の子どもとして歩みなさい。

あらゆる善意と正義と真実のうちに、光は実を結ぶのです」

——エペソ人への手紙 5 章 8-9 節。

あなたの人生にも、まことの光なる神様の恵み、喜び、愛が満ちますように。その神様とお会いするために、ぜひお近くの教会におでかけ下さい。

写真↑ :もうそろそろ終盤に向かう、おちついたたき火。

2021 年 08 月 09 日

.....

第 1 にすべきこと 藤井 貴



私が担当した前回(7 月 12 日)のチャペルの窓で、日曜日の 11 時 30 分から行っている聖書入門講座の紹介をさせていただきました。この講座では、7 月 4 日からイエス様の「山上の説教」を 8 回に分けて学んでおり、本日はマタイ 6 章 33、34 節を中心に学びました。

まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。苦労はその日その日に十分あります。(マタイの福音書 6 章 33

~34 節)

上記の聖書入門講座をチャペル内では「JOY」という愛称で呼んでいます。なぜ「JOY」なのでしょう？

それは今日の学びの聖書箇所由来しています。「JOY」の意味は「喜び」ですが、「喜び」のアルファベットの順序に関係します。すなわち、J→O→Yの順序、これは、Jesus→Others→Yourselfの順序であり、イエス→あなたの周りにいる他の人々→あなた自身で、その順序が「喜び」になるための条件となります。しかし、残念ながら現実には、自分→他人→イエス になってしまっています。

「まず神の国とその義を求めない」とは、すべてに及び神の支配を認め、いかなる状況でも神に全幅の信頼をおいて生きること、神を第一にすることです。聖書は続けて、「そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」と、33節以前に述べられている生活に必要なものは、神様が整えてくださることを宣言しています。

ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。(6章31、32節)

今週もこの順序を意識して歩んで行きたいと思います。

2021年08月01日

『聖書』に出会ってから

辻 喜男



隣町のキリスト教会から届いた、集会所内のはがきを握りしめて、初めてその教会を訪れたのは高校生の時でした。もう六十年ほど前のことになります。後から聞いたことですが、当時の学校では全校生の住所録を配布していたので、それを見ながら教会の近くの生徒に発送したとのことでした。そこで聞いた話は、聖書の一部を読んで、それについての話であったと思いますが、内容は全く覚えていません。聖書という書物の存在は知っていましたが、一部分であって

も、自分から読んだのは初めてでした。この日の集会をきっかけに、その後も何回か教会に足を運びました。そして教会備え付けの聖書を読んでいるうちに、自分の聖書を購入したいと思うようになりました。

そこで通学途中の町で一番大きいと思える書店に行って、聖書を探しました。するとその店の端っこにある棚の、それも一番下の段に少し埃がついた聖書が一冊だけありました。その時は、聖書がその店に置かれていたことだけで満足し購入しました。その聖書をどのように読んだかは忘れてしまい、今は手元にもありません。しかし聖書を持って毎週日曜日、教会に通ったことだけは確かです。この時は聖書の内容よりも、世界のベストセラーと言われた聖書を読んで、説明を聞いているだけで満足していました。しかし二、三年後に新しく翻訳された聖書が出版されることになり、まず新約聖書から販売されました。その頃には教会の中で、聖書の勉強会(と言うほどのこともありませんが)を開いたりして、友達と議論したことなども懐かしく思い出します。そんな中で新約聖書の一節に心が留まり、洗礼を受ける決心をしました。それは「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」という言葉でした。この時以来、クリスチャンとして新しくされ、文字通り新しい人生の歩みが始まりました。

数年後就職したのが、新しい翻訳の聖書を出版、販売する会社でした。1970年に新しい翻訳の『新改訳聖書』旧新約が完成しました。その完成をきっかけに、より多くの人々に聖書に親しんでいただきたいと願い、全国の書店でも販売してもらうために、書店を訪問する計画を立てました。私も数年、西日本地区の担当者として中国、四国、九州地方の各地を回りました。各県庁所在地の中心商店街にある、大型書店を中心に訪問していきました。実際には聖書を持ち歩くのではなく、書店の担当者と話し合い、注文書に書店印をもらい、後日取り次ぎ(書籍全般の卸業者)から納品する方法でした。もちろん地方都市の書店にも足を運びましたが、大型書店ほどには注文が取れませんでした。かつて自分が聖書を求めて、書店に行ったときのことを思い出しながら、書店の担当者と交渉しました。しかし注文数が少ない日は、大きな失望感を味わいながら、ひとりホテルで祈りました。

今も書店に行けば、必ずキリスト教書の棚に足が向きます。ただ最近はいろんなキリスト教関係の本がごちゃ混ぜに並んでいることに悲しくなります。通販で書物を購入する人も多くなっている現在、書店の経営の難しさもあり、街の書店が多く閉店しています。しかし小さくても、聖書を棚に並べている書店を応援したいと思います。

2021年07月25日

.....

リタイアをしたら日本を旅したい。黒田 朔



「リタイアをしたら日本を旅したい。」あれこれ迷った結果、コロナワクチン接種も終え、北海道へ懐かしい友達を訪ねての旅となった。

初めての格安航空で、同じ宿に2泊、レンタカーで8日間を走った。以前訪ねたのは奥尻地震の直前であったから、すでに30年近く前である。気づいたことは、木々が大きくなり、教会も成長し、友も歳をとった。

しかし、そのすべてに神様に従う幸いを見、人生の仕上げについて語り合える友を主に感謝した。コロナが一段落すると、阪南の地で中学時代の友を訪ね、今までとこれからを話せることがいよいよ楽しみとなった。

2021年07月19日



皆さんこんにちは！ 貝塚聖書教会の山里です。今年妻が花壇にユリを植えてみたのですが、今月に入って素晴らしい花を咲かせました！ ユリ独特の香りも素晴らしく、目で、鼻で、楽しませて頂いています。

「そういえば、なぜかキリスト教会では、ユリの花の香りがする事が多かったなあ…」と感じるのは私だけでしょうか。実際、私がこれまで訪れた教会や、今、仕えている貝塚聖書教会でも、ユリの花が好んで飾られる事が多いような気がします。絵画や芸術に詳しい方でしたら、天使の長、ガブリエルのシンボルの

ひとつとして、このユリの花が用いられる事があるというのを知っている方もおられるかも知れませんね。そんなわけで、久しぶりに、花にまつわるお話し。今日はユリです。

イエス様がある時、こんな事をおっしゃいました。

なぜ着る物のことで心配するのですか。野の花がどうして育つのか、よく考えなさい。働きもせず、紡ぎもしません。しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも装っていませんでした。今日あっても明日は炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くしてくださらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ。

マタイの福音書 6章 28-30節、「山上の説教」と呼ばれる一連の教えの一コマです。「野の花」と訳されていることばは、以前の聖書では「野のユリ」と訳されていました。実際、もともとのギリシヤ語聖書では、ユリを意味する単語が使われていますが、ここではユリだけでなく、広く花々全体を指してイエス様は語られている、という事を汲んで、今の訳では「花」となっています。ただ、それほどまでに、イエス様の生活しておられた地域では、ユリが花々を代表していた、という事でもあるでしょうね。

何を着ようかという心配…皆さんもなさるでしょうか。私は、10代、20代の頃はそれなりにファッションに気を使った頃もありましたが、最近はめっきり無頓着になってしまいました。それが良いことかどうかと言われるとちょっと考えてしまいますが、何を着ようかという心配は、昔ほどではなくなりました。

イエス様の時代は、私たち以上に着る物の心配があったでしょうね。今ほど物が豊かというわけにはいかないし、どんな物を着ているかで社会的身分が分かってしまうような時代です。着る物の心配が、食べ物心配と並んで語られるほどです。

でも、そんな心配に、あなたの大切な人生がふりまわされ、時間を費やしてしまうとしたら、なんともったいない事でしょうか。イエス様はその事に気づかせようと、先ほどの教えを語って下さいました。

ソロモン王ですら、野の花、ユリほどにも装っていなかった…なんて言われると、「ほんとはですか？」とびっくりしてしまいますが、花壇のユリをながめ、その香りをかぐ時に、「なるほど、ソロモン王がどんなに豊かで、ファッションもばっちりきめていたとしても、人の心を喜ばせ、香りによって楽しませるといふ点では、この花にも勝てないなあ」と確かに思われます。

もっと大事なのはその後です。神様の目には、あなたはその花、ユリよりも、はるかに尊い、あなたは野のユリよりも美しい、神様はそう見ておられるという事です。ちょっとしたラブコメの、男子が聞いたらひいてしまうほどクサイセリフかも知れませんが、女子の皆さんはどう聞かれるでしょうか。

聖書はよく、神様が人類に宛てたラブレターだ、と譬えられる事があります。あなたがち譬えというわけでもなく、実際、神様は私たちが本当に愛しておられます。人として来られた神、イエス様は、野のユリよりも美しいあなたへ、と、今日も愛のことばを語りかけて下さいます。

そんなイエス様とお会いするために、お近くの教会にぜひお出かけ下さい。それが阪南バイブルチャペル、貝塚聖書教会であればなお嬉しい事です。イエス様との素晴らしい出会いがありますように・・・！

2021年07月12日

心の貧しいものは幸いです

藤井貴



7月に入りました。阪南バイブルチャペルも平日の集会をコロナ対策を十分行ったうえで再開しました。

さて、毎週日曜日の礼拝の後に、聖書入門クラスを行なっています。このクラスは、言わば大人の「教会学校」で、4年間で聖書全体を学んでいます。6月までは、聖書の最初の「創世記」から「ヨシュア記」までと「イエスキリストの生涯」について学んできましたが、7月からは、イエス様の「山上の説教」(マタイによる福音書5章1節から7章29節まで)について、8回に分けて学んで行きます。この原稿を書いている7月4日はその冒頭の5章1節から12節を学びました。

山上の説教の冒頭は、

「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。

悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるからです。

柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐからです。

義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるからです。

あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるからです。

心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るからです。

平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。

義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。」

皆様も一度は聞いたことのあるフレーズではないでしょうか？「 * * * は幸いです」と8回繰り返されていますので、「八福の教え」や「至福の教え」と言われています。

それでは、「心の貧しい者は幸いです」とは、どういうことでしょうか？ イエスの弟子となった人の中には、自分はどうしても聖書の教えを守ることができないで、自分を惨めに思う人がいたかもしれません。けれども、そのように霊的に貧しい状態、無力な自分に気づいた時こそ、救いに近づくのです。私たちは

どんなに努力しても、神の前には正しくない、誇れるものなど何もない者です。そのことに気づき、はじめて、神様からの助けを求めようになります。イエスは、そのように無力な自分に気づき神にすがる人は、天の御国を得ることができるので、何と幸いなことだろうとおっしゃったのです。

続きはチャペルで。皆様を心から歓迎いたします。

2021年07月05日

小説『ベン・ハー』をご存じですか。 辻 喜 男



前回は映画『ベン・ハー』について書きました。この映画の原作は、アメリカの作家ルー・ウォレスが書いた同名の小説であり、その副題が「キリストの物語」と付けられていることも紹介しました。その副題から物語は主人公ベン・ハーが経験した苦しみと憎しみを描きながら、それらすべてがイエス・キリストによる赦しと救いに導かれる道筋であったことを示しています。その意味でこの物語は、ベン・ハーの物語であるとともに、人々を愛し、救いを与えるためにこられたキリストの物語でもあります。ベン・ハーはユダヤ人で、エルサレムの名門ハー家の息子で、名前はユダです。(注記—「ベン」は息子という意味ですから、ベン・ハーは「ハー家の息子」ということになります。「ベン」はミドルネームではありませんが、小説ではベン・ハーと名前のように使われていますが、ここではユダ・ベン・ハーと呼ぶことにします。) このユダ・

ベン・ハーが、ローマ皇帝高官の息子で、幼なじみであった親友のメッサラと再会するところから物語が始まります。ローマに滞在していたメッサラは、エルサレムでユダヤ人を支配するためには力による抑圧政策が必要であると主張しました。しかしこの点で二人の意見がぶつかり、さらに偶然の出来事から、ユダがローマ総督暗殺を計画する者とされ、捕らえられ、囚人として奴隷の苦役に追いやられてしまいました。また母や妹も共犯者として捕らえられてしまいました。

その後のユダ・ベン・ハーの行動は、物語として興味がわくところです。ユダはメッサラに対する憎しみと、家族に対する愛情に支えられ、また多くの人々の援助もあり、苦しみに耐えることができました。そしてついに迎えた戦車競争で宿敵メッサラに勝利することができたのです。

しかしその後、元ハー家に仕えていたシモニデスの娘エステルに出会うことにより、母と妹が生きていることを知らされます。またこのエステルから、当時エルサレムで話題になっていたイエス・キリストのことも聞きました。このイエス・キリストが、かつてユダが奴隷として荒野を引かれて行くとき、そっと水を飲ませてくれた「あの人」だったことを知って、彼の心が大きく揺さぶられていきました。

そんなユダの心を決定的に変えたのは、「あの人」イエス・キリストが、ローマ兵によって十字架にかけ

られているとき、そのローマ兵に向かってうめくようにして語った言葉です。「父よ、彼らをお赦してください。彼らは自分が何をしているのかが、分かっていないのです。」ユダはこのことばを、自分のこととして受け止めたのです。人に対する憎しみから解放されるためには、相手と戦って打ちのめすのではなく、先ず憎しみに凝り固まった自分自身が赦されることが必要だったのです。それだけでなくイエス・キリストによって、母と妹が重い皮膚病から癒され、エステルとともにハー家の家族が、キリストを信じて新しい出発をすることができました。

ルー・ウォレスが、この小説を書こうと思いついたのは、当時、神の存在と救いを否定する論客であったロバート・インガソルと議論したことがきっかけでした。この議論で、自分がいかに神の存在とその救いに無知であるかを思い知らされ、改めて聖書を読み、キリストについて調べることを始めました。そして調べれば調べるほど、彼自身キリストによる救いに目が開かれていきました。その結果、この救いを多くの人に知らせるのに一番良いのは、キリストの時代を扱う小説を書くことだと考えたのです。

その目的は見事に果たされ、この小説と映画によって、全世界の人々にキリストの救いと、救われた者の感動を伝えることに成功しました。

小説家、弁護士、軍人、政治家、外交官と幅広く活躍したルー・ウォレスは、80歳を目前にした1905年、未完の「自伝」を残してその生涯を閉じました。

(松柏社刊 辻本庸子・武田貴子共訳『ベン・ハー』—キリストの物語—(写真)を参考にしました。)

2021年06月27日

.....

「父の日に思う」 黒田 朔



「父の日」はいつも「母の日」と比べられ、「忘れられないように注意する日」として覚えられています。父の日の起源は「母の日があるのにどうして父の日は・・・？」ということから始まったというその起源から後れを取っているから致し方ありません。

南北戦争から帰った父親に育てられた6人兄弟の末っ子ソノラによる牧師への「お父さんにも感謝する日を作ってほしい」との訴えに応じて、ソノラのお父さんの誕生月を覚え、1910年6月19日に初めて「父の日」が守られたそうです。「父の日に何をしてもらいましたか・・・」とよく尋ねられますが、いくら「父

の日ギフト」の商業流されても、ギフト競争では「母の日」にはとてもかないません。残念ながら我が家でも妻の圧倒的勝利です。そこで提案ですが、「父の日」は「父親が自分の人生を語る日」つまり、子供たちにどのようにして今に至ったか「お父さんの話を子供に聞かせる日」とすればどうでしょう。私自身、父は92歳まで長生きしましたが、父については、本当に断片的な思い出しかありません。父と同じように年を重ねた今、父どんな思いで人生を仕上げたのだろう・・・聞けるものなら聞いてみたいと思います。ところで、あなたはあなたのお父さんとお父さんの人生についてどのくらい知っていますか。お父さんから聞く機会がありましたか。あなたの子供たちにあなたがどのようにして今の仕事に就いたのか、どのようにしてお母さんと結婚するに至ったか、これからの人生をどのように仕上げようとしているかを話すことができたなら、きっと今まで以上に豊かな親子関係になるだろうと思います。今年の「父の日」を終えた今、来年に備え始めてはいかががでしょう。

今から家族に言っておくのです。「今年の父の日は終わったけど、来年の父の日にはお父さんの話を聞いてほしい」。きっと「今頃何言ってるの？」と言われるでしょう。それでよいのです。来年の布石です。来年はこう言えます。「去年話しておいたように、今日はお父さんの話を聞いてもらうよ…」その時、家族の間に新しい風が吹き始めるに違いありません。聖書より

「わが子よ、父の訓戒に聞き従え。母の教えを捨ててはならない。それらは、あなたの頭に戴く美しい花の冠、首にかけ飾りだから。」(箴言 1:8, 9)

2021年06月21日

「恵みの雨」 山里将之



皆さん、こんにちは。貝塚聖書教会の山里です。

梅雨を迎えました。あちらこちらであじさいが美しく咲く季節。田んぼでは田植えが始まり、いよいよ夏に向かって移ろいゆく時期だな、と思います。

先日、わがやでは衣替えをしました。子どもたちの制服を半袖に。反対に、冬物はビニール袋いっぱい詰めて、防虫剤とともに押入れへ。皆さんのお宅でも同じような営みがあるのではないのでしょうか。

「恵みの雨」ということばは良く耳慣れたことばです。私たちの国、日本は、お天気の分野では温

暖湿潤(おんだんしつじゅん)と呼ばれる地域で、文字通り、暖かくって潤いがある、世界的に見てもとても住みやすい、快適な地域です。梅雨などでは雨がむしろ多すぎて、「恵み」よりは「災害」も心配になるくらいかも知れませんが、そんな私たちでさえ、「恵みの雨」ということばを知っているわけです。

イエス様が生きた聖書の世界。イスラエルのあるパレスチナ地方は、ご想像出来るかと思いますが、日本ほどには雨には恵まれない地域も広く存在します。ごつごつした岩肌むき出しの地域。砂漠や荒地。内陸部…パレスチナでは東方…からくる東風が吹くと、草花を一気に枯らしてしまう事がある。聖書ではしばしば、東風を神のさばきや滅亡の象徴する表現として用いる事がある。そんな世界ですから、私たち以上に「恵みの雨」ということを実感しやすかった事でしょう。

雨の多い日本に住む私たちでさえ、水のありがたさは良く知っています。パレスチナ地方ではなおさらで、特に砂漠では、オアシスにありつけるかどうか、川の水が枯れずに流れ続けているかどうか、井戸や湧き水、泉の水が新鮮で不純物がなく、人体に害のあるものが混ざり込んでいないか、そして、雨が、雨の季節にきちんと降ってくれるかどうかは、文字通り死活問題でした。

イエス様は、恵みの雨がいかに私たち人間の生命活動にとって必要不可欠であるか、もちろん良く知っておられました。そして、その雨も、また太陽も、神様の恵みとして与えられている事を教えて下さいました。神様の愛がどれほど深く広いものであるかを教え、その恵みが善人だけでなく悪人にさえも及ぶものである事を教え、そのような神様に愛されている者として、私たちも、敵を憎むのではなく愛するように、と教えられました。

マタイの福音書 5章 43-45 節…

『あなたの隣人を愛し、あなたの敵を憎め』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。天におられる

あなたがたの父の子どもになるためです。父はご自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからです。

「恵みの雨」をいただくこの季節。あなたにも神様の恵みが「注がれています」。その事をより深く味わい、確かめるためにも、ぜひお近くのキリスト教会をお訪ね下さい。

写真:岸和田市と和泉市の中間にある、とある小川にて。

2021年06月14日

糸杉 藤井 貴



前回に続き、聖書にでてくる植物です。聖書には、聖書の地に自生しないものも含まれますが、100種を超える植物が登場します。西南学院大学聖書植物園では、聖書の植物を、日本で可能な限り収集・展示しようと、1999年11月13日、開園されました。この植物園には、現在約60種の聖書関連の植物が集められています。(西南学院大学聖書植物園のHPより)

さて、そのひとつの糸杉(サイプレス)

は、日本人の憧れの風景のひとつである地中海地方に生息する植物です。南仏プロヴァンス地方に行くと、糸杉にオリーブ畑、ブドウ畑が点在する典型的風景に出会うことができます。ゴッホが自死する直前に多数の糸杉を書いていますので、ご存知の方も多いはずです。ヨーロッパで糸杉は死や喪の象徴とされ、キリストが磔(はりつけ)にされた十字架もこの木で作ったという伝説もあり、一方では樹齢が極めて長く、生命や豊穡のシンボルでもあるとも言われています。

ところで、約3000年前のイスラエルのダビデ王は、杉(糸杉)の枝をもって喜び踊ったと書かれています。**“ダビデとイスラエルの全家は、竖琴、琴、タンバリン、カスターネット、シンバルを鳴らし、主の前で、すべての杉の木の枝をもって、喜び踊った。”**サムエル記 第二 6章5節

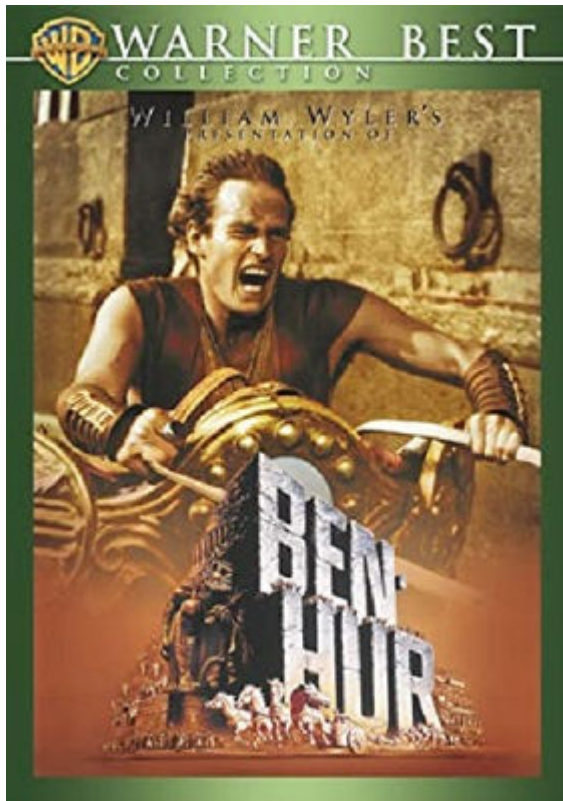
詩篇150篇は、

“ハレルヤ。神の聖所で神をほめたたえよ。御力の大空で神をほめたたえよ。その大能のみわざのゆえに神をほめたたえよ。その比類なき偉大さにふさわしく神をほめたたえよ。角笛を吹き鳴らして神をほめたたえよ。琴と竖琴に合わせて神をほめたたえよ。

タンバリンと踊りをもって神をほめたたえよ。弦をかき鳴らし笛を吹いて神をほめたたえよ。音の高いシンバルで神をほめたたえよ。鳴り響くシンバルで神をほめたたえよ。息のあるものはみな主をほめたたえよ。ハレルヤ。”

今年度、阪南バイブルチャペルは、「喜び、祈り、感謝する」を目標にしています。すべての杉の木の枝をもって、喜びをもって、いつも神をほめたたえる人生を歩んでいきたいと思ひます。

2021年06月07日



今年5月3日(月)NHKBSで映画「ベン・ハー」が放映されました。上映時間約三時間半の長編でしたが、緊急事態宣言が発出され、外出自粛要請がなされていたこともあり一気に見ることができました。改めてあの有名な戦車競争のシーンでは、ハラハラドキドキさせられました。

ところでこの映画「ベン・ハー」の原作は、1827年アメリカインディアナ州に生まれた、ルー・ウォレスが書いた映画と同じ題名の小説です。彼は多彩な人物で、その才能を生かして軍人、弁護士、政治家など幅広く活躍する中で、戯曲や小説も書き始め、1880年(明治13年)小説「ベン・ハー」を出版しました。

この小説は、出版当初は世間の関心も低く、2~3年はわずかな出版数に終わりました。しかし徐々に一般読者の間で話題になり、七年目には売り上げが二十万部に達したということです。さらに1899年に舞台化されたことで、売り上げがさらに増大しました。そして1907年に先ずサイレントで映画化され、また1925年にも同じサイレントで二度目の映画化がされました。

そしてこの二度目の制作スタッフであったウィリアム・ワイラー監督が、三回目の映画化に取り組み、1959年公開されました。

この映画は構想十年、準備六年、撮影一年、出演者総数五万人を数える超大作となり、記録的なヒット作品となりました。そして11部門でアカデミー賞を獲得して話題となりました。日本では1960年に公開され、15ヶ月以上のロングランを記録したということです。当時は日本でも映画の全盛期で、「ベン・ハー」が与えた映画のおもしろさを多くの日本人も感じることができました。なかでも多くの人の印象に残ったシーンは、主人公ユダ・ベン・ハーが復讐とユダヤ民族の誇りのために戦う戦車競争のシーンです。15分に及ぶこのシーンは、多くの人に強烈な印象を与えることに成功しました。

しかしこの映画には、もう一つの大切なテーマがありました。それは原作も映画も「キリストの物語」という副題が付けられていることから分かるように、この作品は主人公ユダ・ベン・ハーと同時代に生きたイエス・キリストの物語でもあったのです。映画の最初にイエス・キリストの誕生のシーンがあり、最後にイエス・キリストの十字架のシーンが描かれています。そしてユダ・ベン・ハーが、同時代に生きたイエス・キリストによって、無実の罪による苦難と憎しみから解放され、さらに母と妹が、当時死の病とされていた重い皮膚病からいやされ、ハー家の家族ひとりひとりに、新しい人生が始まることを予感させてこの映画は終わっています。

この映画は一大スペクタクル史劇として、その山場は戦車競争のシーンにあることは間違いのないことです。しかしそれだけで終われば、この映画の魅力は半減します。主人公ユダ・ベン・ハーが、「あの人」と呼んだイエス・キリストとの出会いによって、その後の人生が大きく変えられたことを見逃すことができません。イエス・キリストとの出会いによって、人は変わることができ、それまでに経験したすべてのことが、無駄ではなかったことを著者ルー・ウォレスは訴えたかったのです。

次回には、ルー・ウォレスがこの小説を書いた動機と、なぜ「キリストの物語」という副題が付けられたのか、などについて考えたいと思います。



皆さん、こんにちは。貝塚聖書教会の山里です。

この記事を書いているのは5月23日(日)。今日は暑くなりましたね…。場所によっては真夏日のようになったところもあるとか。皆さんの所ではいかがだったでしょうか。

私がここ泉州にやって来たのが2013年の春。8年前になるわけですが、思わされるのは、春や秋の短さ。冬から一気に夏へ、また夏から一気に冬へ。そんな感じの場所だなあ、と思わされています。

実は、先週、諸用で一週間、上京する事になりました。それで、この「チャペルの窓」の記事も一週間

ずらして頂いての投稿となりました。上京する前の日までストーブを出していたのに、一週間経って泉州に帰ってみれば、クーラーをつける始末…今日は阪南での礼拝の後、大好きなロングパークにふらっと立ち寄ったのですが、すでにさながら海開きのような賑わい。「コロナ、大丈夫かなあ…」と、一抹の不安を感じながらも、私のふるさと、沖縄を懐かしみながら、海辺の景色をしばらく楽しみました。

上京するにあたって、いろんな人の助けを頂きました。教会の留守番、礼拝や集会のピンチヒッター、皆さんとの連絡…お陰様で、上京の御用も護られました。

牧師という働きは、普段は「助ける」事に思いを向けがちだなあと思いますが、このたび教えられたのは、「助けられる」という事もまた、大切な牧師の働きだなあ、という事。「人は愛されて、愛する事を学ぶようになる」というのは良く耳にすることば。同じように、「ああ、こうやると、本当に助かるんだなあ」という経験を、牧師自身、折に触れて与えられる事で、本当の意味で「助ける」事が出来るようになる、自己満足ではなく、本当に相手が「助かる」助けを与えられるようになる、そんな風にして、牧師自身も成長させて頂くんだなあ、としみじみ思わされました。

今日、5月23日は、キリスト教会では「ペンテコステ」と呼ばれる記念の日。何の記念かと言うと、イエス様が約束して下さった聖霊なる神様が弟子たちに与えられ、この世界にキリスト教会が誕生した、という事のお祝いの日なんです。聖霊様が宿って下さったという事で、「聖霊降臨日」とも呼ばれます。

その聖霊様は、「もうひとりの助け主」と呼ばれています(ヨハネの福音書14章16節)。弟子たちは、助け主なる聖霊様の助けを頂いて、全世界にイエス・キリストの喜びの知らせ、福音を伝える者とされて行きました。彼らの働きはもちろん、救い主を伝える事ですが、その働きは、助け主に助けられてこそ、進められて行きました。弟子たちもまた、助けられて、助ける事を学んだ人々、私たち全てのクリスチャンの良き先輩たちです。

この度、助けを頂いた多くの方々に、あらためて感謝致します。そして、まことの助け主であり、救い主であるイエス様に感謝致します。皆さんも、素晴らしい助け主であるイエス様を心からお迎え下さい。

「そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与え下さり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにして下さいます。」

聖書 ヨハネの福音書14章16節

※写真:真夏日のようなペンテコステのロングパークの夕焼け。

2021年05月24日

一輪の胡蝶蘭 黒田 朔



胡蝶蘭が一輪、花をつけました。昨年、尾崎に引っ越すときに「お別れに」と頂いた一鉢の胡蝶蘭。何か月も楽しませてもらい、花が終わって手入れをしようとミズゴケを取り除けると「ビックリ！」3本仕立てだと思っていたのが、一鉢に花枝1本の小鉢が3つ、一鉢にまとめてあり、「なるほど！」と感心することしきり。

来年も花が咲けばと・・・と一鉢ずつ分けて、世話を始め、昨日の日曜日、一輪花が開いた。控え目の、小振りな花一輪がうれしくて、礼拝堂の受付にそっと置く。周りの空

気が変わり、うれしかった。水やりの他に固形の肥料を置いただけであったが、途中で肉厚の葉が黄ばみ、慌てた。

枯れ始めの原因は水のやりすぎだと読んだ。育てるとは必要としているものをその時に与えることで、育てるものが良いと思うことを気付いたときに与えることではないと学んだ。小さな一輪の花は胡蝶蘭が内に秘めた力を表わし、美しく、周りの空気を和ませている。うれしかった。

2021年05月17日

.....

-レンズ豆- 藤井 貴



新型コロナの影響で家庭菜園をする人が増えているそうです。私も貸し農園で野菜を育てて今年で3年目になります。4月中旬から5月上旬にかけて、トマト、キュウリ、水ナス、ズッキーニ、スイートコーン、小玉スイカ等を植えました。また、今は端境期で、玉ネギのあと、収穫できるのは豆類のエンドウです。

ところで、聖書にも多くの植物が記載されています。福岡にある西南学院大学の聖書植物園は、聖書に登場する植物を可能な限り復元・展示しようと、1999年11月、大学開学50周年の記念事業として開園されました。今から約2,000年前の古文書である聖書に登場する植物を復元・展示されています。

聖書の地、パレスチナは古代中近東諸民族の定住圏「肥沃な三日月地帯」の南西部にあたり、四国程度の狭い国土ですが、地形や気候は変化に富み、北東の山岳地帯の高山植物から南の乾燥地帯の砂漠植物にいたるまで2,800種類以上の多様な植物が生育します。聖書にはそのうち100種を超える植物が

登場します。代表的な植物は、空腹の兄エサウから長子の特権を譲り受ける取引に弟のヤコブが使った煮物に入っていた「レンズ豆」(創世記 25:29-34)。ソロモンの神殿建築に用いられた「レバノン杉」(列王記上 6:15-16)。一夜にして生じ、一夜にして滅びたという預言者ヨナの「とうごま」(ヨナ書 4:6-10)。放蕩息子が空腹のため食べたいと思った豚の餌の「いなご豆」(ルカ 15:16)。思い煩いから癒されるために、「見よ」と勧められた「野の花」(マタイ 6:28; ルカ 12:27)。小さくともやがて大きくなる神の国の譬えに登場する「からし種」(マタイ 13:31-32; マルコ 4:30-32; ルカ 13:18-19)。群衆に囲まれたイエス・キリストを見ようと背の低い徴税人ザアカイがよじ上った「いちじく桑の木」(ルカ 19:3-4)等々、聖書には、印象深い話に彩りを添える植物が多く登場しています。(西南学院大学のホームページより)

このように聖書には畑の野菜ではありませんが、豆類である「レンズ豆」が登場します。レンズ豆は、人類が利用してきたマメの中で最古の部類に属し、ヒヨコマメやソラマメと並んで重要な食物で、現在でもカレー、スープ、煮込み料理など、インド料理、イタリア料理、フランス料理で使用される食材のひとつになっています。

“さて、ヤコブが煮物を煮ていると、エサウが野から帰って来た。彼は疲れきっていた。エサウはヤコブに言った。「どうか、その赤いのを、その赤い物を食べさせてくれ。疲れきっているのだ。」それで、彼の名はエドムと呼ばれた。するとヤコブは、「今すぐ私に、あなたの長子の権利を売ってください」と言った。エサウは、「見てくれ。私は死にそうだ。長子の権利など、私にとって何になろう」と言った。ヤコブが「今すぐ、私に誓ってください」と言ったので、エサウはヤコブに誓った。こうして彼は、自分の長子の権利をヤコブに売った。ヤコブがエサウにパンとレンズ豆の煮物を与えたので、エサウは食べたり飲んだりして、立ち去った。こうしてエサウは長子の権利を侮った。(創世記 25章 29~34節)”

エサウは双子の弟のヤコブから、長子の権利をレンズ豆と引き換えに買った、と書かれています。長子の権利は、神様が与えてくださる祝福の相続のことで、祖父のアブラハム、父のイサクと代々引き継がれた神様からの祝福の約束です。

“こう言われた。「わたしは自分にかけて誓う——主のことば——。あなたがこれを行い、自分の子、自分のひとり子を惜しまなかったので、確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように大いに増やす。あなたの子孫は敵の門を勝ち取る。あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたが、わたしの声に聞き従ったからである。」(創世記 22章 16~18節)”

エサウは、「あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。」、すなわち、「アブラハムの子孫であるイエスキリストによって全人類が祝福される」ことに繋がる約束を軽んじた、すなわち、神様ご自身を軽んじたこととなります。

2021年05月09日

「川柳で一息」辻 すみ子

☆コロナ菌狭き門でもすり抜ける

☆少子化の子どもの声を待ちわびる

- ☆そのうちに誰もがたどる老いの道
- ☆人寄れば十人十色神の作
- ☆腹割って話をしたら良いヒント
- ☆会食のマスクつけたり外したり
- ☆マスクして無口にさせるコロナの手
- ☆間違いもそっとしておく思いやり
- ☆ズームでは目と目合わせて語れない
- ☆問題は私が播いた種らしい
- ☆黙食にバツハヘンデル味付ける
- ☆チャペルカフェ大繁盛の夢見つつ

俳句と違って、人の気持ちを詠む川柳のユーモアが魅力で、自分にはないものと思っていた世界。自分の気持ちを掘り下げてユーモアで包めたらいいなと、川柳にただ憧れていたちょうどそんな時、阪南市の広報誌に「川柳を始めてみませんか」という講座の案内がありました。

2017年8～9月、四回の講座。最終回に句会のご案内があり、一度行ってみようと思決心して、10月1日、初めて公民館の句会に出席。70～80代の皆さんお元気で、長年取り組んでおられる方たちばかりの中に混じっての初心者。70歳の私もここではまだ少し若手です。以来三年、一度も休まず句会に参加できたのは、シンプルな言葉の中に深い味わいが出せる、難しいけれど、苦心しながら締め切り間際までまとまらなくても、何とか提出できて、一回一回達成感を味わえることにすっかりはまり込んでしまいました。

私にとっては、50年来のクリスチャン人生に川柳との出会いは大きなおまけと思って、聖書のことばとともに、楽しみながら続けて行けたらいいなと思っています。

2021年05月03日

たこ焼きパーティへの憧れ・・・黒田 朔



「阪南バイブルチャペル」の住人として頂いて丸一年を迎えました。すっかりリタイア生活が身につき、朝は夫婦で聖書を読み、祈りの時間を持ち、「朝ドラ」から「あさいち」で一日が始まる。

ちょうど一年を振り返っていた時である「あさいち」で「家が片付いたら何をしたいか」が話題になった。「ママ友とお茶をしたいわ」というママ、「たまには友達家族を招いてたこ焼きパーティを・・・」とのパパの言葉に「日本では家に呼ぶ習慣がないから・・・」と思っていたが本当はそう

ではないと気付かされる。出来るなら家に人を招いてパーティぐらいはして見たいというのが生活の憧れと知って喜ぶ。「いや、待てよ、お茶やたこ焼きなら、スタバやお店もある。

本当に欲しいのは家に招いて話合えるようなお付き合い、何かの時には話し合える友ではないか。」リタイアした後、家族もなく1週間誰とも口を利くチャンスがない、病気になっても相談する人がなく、「孤独死予備軍」などと話が発展するまでもなく、人は助け合って初めて人らしさを失わず、日ごろから良い人間

関係を求めているのだ。

そこで、じゃあ誰と誰とに声をかけ、どういう組み合わせで招いたら、来て貰いやすいかと夫婦でマッチングを始める。「緊急事態宣言」が解除されたら早速、「ママ友ティータイム」「たこ焼きたまにわパーティ」を開いて見たいとチャペル住人2年目に向かう方向を見つけて喜ぶ。「朝ドラ」「あさいち」で始めるリタイア生活も捨てたもんじゃない。そうそう、聖書の言葉を思い出した。「…また、神である主は言われた。『人がひとりであるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。』」(創世記2:18)ふさわしい人と一緒に生きるのが人本来の造りなので、孤独な生活はどこかに無理が起こる。

そこで、ここ阪南バイブルチャペルの「カフェ・チャペル」をのぞいて下さい、歓迎します。また、そのうち我が家の「〇〇・XX友ティーパーティ」や「たこ焼きたまにわパーティ」へもお招きします。お楽しみに…。

2021年04月29日

「成長は神様からの恵みの賜物」 山里将之



皆さん、こんにちは。貝塚聖書教会の山里です。

このところ、お花にまつわるお話しを続けて投稿させて頂きました。今回はちょっと趣を変えて、食べ物にまつわるお話しです。植物つながりではありませんが、今回のお話しは、今が旬のタケノコのお話し。

この季節になると、タケノコをたくさん頂く事があります。先日もある知人の方から山盛りのタケノコを頂きました。見るからに立派なタケノコ、「うちでは食べ切れないねえ」と、おすそ分けのおすそ分けを

させて頂いています。

今が「旬」のタケノコ。漢字で書けば「筍」。ご存知のとおり、「旬」という字には、「ちょうどよい時期」という意味があり、食べ物に使われると「食べごろです」という意味になりますね。もともとは、10日間のことを指す日付の単位。これに竹冠(タケカンムリ)をつければ「筍」、タケノコとなります。「成長の早い様子を表している」とも、だからこそ「食べごろ、旬が大事な食材」の意味だとも言われています。

「雨後のタケノコ」とは良く言ったもので、本当にあっという間に成長して竹になってしまうのですが、そんな竹に成長出来るのも、雨という恵みあってこそ。同じように、私たちひとりひとりも、もちろん各々、日々の生活を営み、働きに勤しみ、励んで参りますが、そもそもそうする事が出来るのは、やっぱり神様がそう出来るように、恵みを注いでくださるからです。

私には二人の娘がいますが、早いもので、大阪にやって来た時にはまだ幼稚園にも入っていなかった上の子は今年、小学6年生、来年からは中学生です。下の子も、小学4年生になり、コロナにも負けず新学期を楽しんでいます(先日、自転車を新しくしました…ケガや事故から護られますように…)。

二人を見ていると、人を成長させてくださるのは、もちろん私たち父母も親として関わりますけれど、でも

やっぱり、神様のおかげだな、と本当に思います。親も一人の人間。欠けだらけ。失敗もする。決して完全ではない。けれどもこんな私たちの間で子どもたちがそれなりに育つとすれば、それは本当に、神様のおかげだな、と思います。

タケノコのように、成長の早い人も、そうでない人も、「成長は神様からの恵みの賜物」なんだと気がつく時、必要以上に傲慢になってしまう事や、逆に必要以上に自己卑下に陥ってしまう事から護られる、そんな風に思われます。タケノコの旬にはタケノコの旬があるように、人生の旬、ちょうど良い時、おいしい時期も、人それぞれ。他人と自分を比べて、もしそれが良いカタチで励みになるなら良いんですが、多くの場合、優越感か劣等感か…どちらにしても健全な状態ではない心境になってしまうとしたら、それはやっぱり「不」健全。

あの人にはあの子の旬がある。私には私の旬を神様が用意して下さっている。もちろん私も努力し、一生懸命励むけど、成長させて下さるのは神様。神様が私の人生の責任を取って下さる。私は私のスピードで、私の人生の「食べごろ」を期待して歩いていければそれでいい。そんな風に思えたら、昨日までと同じ人生が、昨日とは違って見えるかも知れませんね。

神様と出会って、あなた自身の人生の「旬」を探してみませんか。阪南バイブルチャペル、貝塚聖書教会、そしてお近くのキリスト教会に、ぜひ足を運んでみて下さい。

「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。」

聖書 コリント人への手紙 第一 3章 6-7 節

※写真:いただいたタケノコ。見事！ 皆さんのところでもとれますか？

2021年04月20日

「野の花」 藤井 貴



桜が終わり、ツツジやサツキが咲き始めました。阪南市の花もサツキです。同じように5月に咲く花にアネモネがあります。

アネモネは、キンポウゲ科イチリンソウ属の多年生草本で茎高 15~30cm で、4~5 月頃赤色、ピンクなどいろいろの色の花をつけます。花は直径 4~8cm で、花びらの基は黒っぽく、周りは白くなっています。原産はヨーロッパ南部から地中海東部沿岸地域です。

イエス様が過ごされたパレスチナには、至る所に生育し、平原に多く、特にガリラヤ湖畔に美しく咲きます。花は朝開き、夕方近くなると閉じてしまします。

イエス様が山上の説教で、栄華を極めたイスラエルの王ソロモンとの対照で言われた「野の花」(マタイ 6:29)は、ギリシア語ではクリノンです。これは、旧約聖書において「ゆり」と訳されているシウシヤン(シヨシヤンナー)の七十人訳の訳語です。英語の訳でも多くは lilies of the field と訳されています。しかし、このクリノンはゆりよりも広い範囲の野の花を指し、アネモネのことであるというのが有力な説です。(「関西学院 吉岡記念館聖書の植物」から)

山上の説教からの抜粋 (マタイの福音書 6章 26～34 節)

空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。それでも、あなたがたの天の父は養ってくださいます。あなたがたはその鳥よりも、ずっと価値があるではありませんか。あなたがたのうちだれが、心配したからといって、少しでも自分のいのちを延ばすことができるでしょうか。なぜ着る物のことで心配するのですか。野の花がどうして育つのか、よく考えなさい。働きもせず、紡ぎもしません。しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも装っていませんでした。今日あっても明日は炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くして下さらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ。

ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。苦労はその日その日に十分あります。

日々の生活の疲れを覚えるとき、いつもイエス様の「野の花」のことばを覚え、どれだけ励まされたことでしょう。神が私のことをすべて知っていてくださり、必要を満たしてくださるのです。

2021年04月12日

.....

クリスチャン作家 三浦綾子(七) 辻喜男

「続・氷点」にみる罪の赦し

三浦綾子著「氷点」のテーマは人間の罪(原罪)の問題であり、さらに「続・氷点」は、その罪からの赦しがテーマでした。すべての人間が持っている罪の問題は、人間関係だけにとどまることなく、神と人間の関係でもあります。人間同士がどれほど赦し合ったとしても、神に対する罪が解決されなければ、本当の意味での赦しにはなりません。三浦綾子はこの罪と赦しの問題に生涯をかけて向き合い、クリスチャン作家として罪からの救いについて書き続けました。

綾子は「続・氷点」の最終章「燃える流水」の中で、陽子が経験した不思議な自然現象について書いています。陽子は流水が燃えているような現象を見て、そのゆらぐ炎を見つめる自分の心に、不思議な光が一筋さしこむのを感じました。陽子はこのようなオホーツク海の流水に起きた驚くべき自然現象を経験し、神の實在とキリストの十字架による罪の赦しを、何の抵抗もなく、素直に信じることができたのです。

綾子はその様子を次のように記しています。

「再び、すうっとサモンピンクの光が、流水の原を一筋淡く染めた。次の瞬間だった。突如、ぽとりと血を滴らせたような真紅に流水の一点が滲んだ。あるいは、氷原の底から、真紅の血が滲み出たといってよ

かった。それはあまりにも思いがけない情景であった。陽子は息をつめて、この不思議な事実を凝視した。やがて、その紅の色はぼとり、ぼとりと、サモンピンクに染められた氷原の上に、右から左へと同じ間隔をおいてふえて行く。と、その血にも似た紅が、火炎のようにめらめらと燃え始めた。人間の意表をつく自然の姿に、陽子は目を見はらずにはいられなかった。」「あざやかな炎の色を見つめながら、陽子は、いまこそ人間の罪を真にゆるし得る神のあることを思った。神の子の聖なるいのちでしか、罪はあがない得ないものであると、順子から聞いていたことが、いまは素直に信じられた。この非情な自分をゆるし、だまって受け入れてくれる方がいる。なぜ、そのことがいままで信じられなかったのか、陽子はふしぎだった。」

「炎の色が、次第にあせていった。陽子は静かに頭を垂れた。どのように祈るべきか、言葉を知らなかった。陽子はただ、一切をゆるしてほしいと思いつづけていた。」「(「続・氷点」「燃える流水」より)

ところで以上の描写の信憑性について、後日、光世は次のように記しています。「この不思議な現象は、綾子と私が宿の窓から、二時間も流氷を眺めつづけているうちに起きた現象であった。」しかしこのような現象は、単なる想像の所産である、と批判した人がいました。光世はこの批判に答えて「確かに容易に信じがたい事象ではあったが、私たち二人で間違いなく目撃した事実である。これだけは彼女(綾子)の名誉のためにもあえて力説しておきたい。」と書いています。

三浦綾子・光世がともに見た現象は、不思議な自然現象であると共に、この二人の信仰による体験でもありました。綾子は光世の祈りと導きにより、病床で洗礼を受けました。陽子が経験した不思議な心の動きは、まさに綾子の経験でもありました。その意味で陽子のその後は、綾子が夫と共に歩んだクリスチャン作家としての生涯そのものであったように思います。

(参考・竹林一志著「聖書で読み解く「氷点」「続・氷点」いのちのことば社。三浦光世著「三浦綾子創作秘話」小学館)

2021年04月06日

受難週に「ゲッセマネの祈り」を覚えて 黒田 朔



今週、キリスト教会の暦では「受難週」を迎えます。今もそうですが夕方に始まるユダヤの暦に従い、イエスは金曜日に最後の晩餐を弟子たちと共にし、その後、いつものように弟子たちを伴い、ゲッセマネの園で祈りの時をお過ごしになりました。

何も知らない弟子たちは恒例の祭りの食事の後で眠ってしまうのですが、イエスは目の前に迫る十字架を思い悲しみ、悶え、ひれ伏して祈られました。

「わが父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしが望むようにではなく、あなたが望まれるままに、なさってください。」

人類の救い主として身代わりに十字架に架かるために来たと言われたイエスが祈られたこの祈りは神の御子イエスにとって十字架がどれほど厳しいものであったかを物語ります。それは恥辱や痛みの厳しさではなく、罪無き神のみ子が罪とされ、父なる神との絆が断たれるという私たち人間には想像できない心がちぎれる叫びであり、祈りです。

その後に残る沈黙を父なる神の御心と受けとめ、イエスは「さあ、行こう」と弟子たちを促し、十字架に向かわれました。

この結果、「キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、

義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。」(I ペテロ 2:24)との罪の赦しの宣言を神は権威をもってしてくださるので、今は誰でも、もちろん、あなたも言うことができます。「イエスの十字架のゆえにわたしの罪は赦されました、感謝しています。」これがキリストによって与えられる赦しであり、死の向こうに望みをもつ喜びです。今週、十字架に向かって歩まれるイエスを偲びたいと願って居ます。

写真上…今もオリーブの古木が残るゲッセマネの園

2021年03月29日

.....

「梅、桃、桜、アーモンド」 山里将之



皆さんこんにちは。貝塚聖書教会の山里です。

3月1日の月曜日、金熊寺近くの梅林を訪れました。この記事は3月21日の日曜日に投稿していますので、ちょうど20日前の事になります。その頃はまだ五分咲きくらいでしたが、それでも辺り一面の梅の香りが心地よく、春が近くなったなあ実感しました。今ではもう桜の時期になって来ていますね。今年には不思議にも、和歌山よりも京都が先に桜開花を迎えたという事で、ちょっと話題になっていましたね。梅と桜、それに桃を加えて、私たちの国の春を彩る代表的な花々が楽しめる、そんな季節を迎えています。

聖書の世界にも、日本でいう梅、桃、桜と同じように、春を代表する花があります。それが、アーモンド。意外かも知れませんが、アーモンドの花は、梅、桃、桜の花とそっくり。実はどれもバラ科の植物で、遠い親戚みたいなものなんだそうです。インターネットで検索して、アーモンドの花を確かめてみて下さい。そっくりでしょう？そして、日本の場合と良く似ていて、「アーモンドの花が咲く頃」と言えば、その意味はつまり、「春近し」。日本の「梅、桃、桜の咲く頃」とほぼ同じニュアンスなんです。

私はこの話をあちこちでしているのですが、もしかするとすでに、この「チャペルの窓」に投稿する前に、「同じ話、もう聞いたわあ」となる方もおられるかも知れないのですが、聖書の舞台、イスラエルって、意外と日本と似ている部分も多いんです！

日本人にとって、「桜咲く」とは、春の訪れだけでなく、「希望となる道が開かれた」「入学試験に合格した」「欲しかった資格を習得出来た」など、新しいステージに一步踏み出す、みたいな意味がありますよね。イスラエルの人々にとって、「アーモンドの花が咲く」季節は、はるか昔、神様が、モーセという偉大な指導者、預言者を用いて、エジプトで奴隷状態だったイスラエルの民を解放して下さった、出エジプトを記念する、「過越しの祭り」をお祝いする季節でもあります。モーセ率いるイスラエルの人々は、本当に、新しいステージ、自由への旅路に旅立ったのです。

そして現在、「過越しの祭り」は、私たちイエス様を信じるクリスチャンにとっては、イエス様の十字架と復活を記念する、罪の奴隷状態からの解放、そして永遠のいのち、復活のいのちを喜ぶイースターの喜びとして祝われています。イエス様を信じる者は、神様とともに歩むという新しい門出を経験します。日本で、難関試験を突破して、無事合格した時に言われる「桜咲く」と同じように、あなたがイエス様を信じた時、神の御国への門が開かれます。イエス様を信じて天国への「入国審査」に晴れてパスした方々、「桜咲く」ならぬ、「アーモンドの花が咲く」ですね！

梅、桃、桜、アーモンド。全部同じ、バラ科の仲間。春の訪れと、新しい歩みへの出発を予感させる花々。その美しい姿と心地よい香りの中で、あなたも、神様とともに喜ぶ新しい歩みを始めてみませんか。

聖書 民数記 17章 8節

「その翌日、モーセはあかしの天幕に入って行った。

すると見よ。レビの家のためのアロンの杖が芽を出し、つぼみをつけ、花を咲かせて、アーモンドの実を結んでいた。」

阪南バイブルチャペル、また貝塚聖書教会は、皆さんのお越しをお待ちしています・・・

※写真:3月1日に訪れた金熊寺近くの梅林にて。

2021年03月22日

.....

讃美歌と唱歌 藤井 由美子



みなさんは唱歌と童謡の違いをご存じですか？

唱歌は明治政府が学校で音楽の授業のために作った曲ですが、こどもの生活からかけ離れているという声から大正時代に新しく作られた曲が童謡です。「故郷」「春の小川」「おぼろ月夜」「われは海の子」は唱歌で「夕焼け小焼け」は童謡です。今はどちらも私たち世代には懐かしく郷愁を覚える歌です。

では唱歌の中には讃美歌と同じまたはよく似たメロディーの曲があるのをご

存じですか？

今日の私たち世代にとって唱歌は懐かしく、歌うたび小さかった頃の思い出が蘇る曲ですが、唱歌が作られた時代には今まで日本になかった全く新しいタイプの曲でした。

明治時代になって西洋から技術や産業が一気に日本に入ってきて来ました。そして、西洋文化もたくさん取り入れられました。音楽についてもそれまでの日本にはなかった西洋音楽が入ってきて来ました。

唱歌の歴史は日本の西洋音楽教育の歴史と密接な関係にあり、その唱歌の誕生には宣教師が持ってきた讃美歌と深い関係があります。

開国されキリシタン禁制が解かれるとすぐにアメリカなどから宣教師がやってきました。

彼らは教会や自分たちが作ったミッションスクールで讃美歌を教え讃美歌が広まりました。

当時の宣教師の資質としてあげられていることの一つに「歌が上手、しかし上手すぎない」というものがありました。あんまり上手だと専門的になりすぎるといふ懸念のようですが、讃美歌の指導は宣教師にとってとても大切なことでした。このようにして、讃美歌が歌われるようになり、そのメロディーに歌詞を付けた唱歌が生まれました。

一方、教会で信仰を持ち、讃美歌を知り、オルガンを学び音大に進むクリスチャン音楽家も生まれました。荒城の月、鳩ぽっぽなどの作曲者、滝廉太郎、故郷、春の小川、おぼろ月夜の作曲者、岡野禎一などです。詳しくはまたの機会にいたしますが、荒城の月は唱歌とは反対に日本から出てベルギーの修道院で讃美歌として歌われています。

このように讚美歌は日本の唱歌に大きな影響を与えました。

4月4日のイースター礼拝後に、春の歌(讚美歌と唱歌等)を歌う集いが予定されています。是非覗いてみてください。

2021年03月16日

.....

クリスチャン作家 三浦綾子(六) 辻 喜男

『続・氷点』が書かれた動機

『続・氷点』は1970年5月から一年間、朝日新聞朝刊に連載されました。『氷点』の連載が終了してから四年半が経過していました。綾子は最初、『氷点』の続編は執筆する予定がありませんでした。しかし『氷点』連載が終わったあとに起こった、ある事件がきっかけとなつて続編を執筆しなければ、という思いが強くなったのです。

『氷点』の結末は、服毒自殺した陽子が、三日三晩ののちに、どうやら命を取りとめるのではないかといいところで終わっている。しかしこの小説の読者であったひとりの女子高校生が、連載が終わった翌々に自殺をするという事件が起きました。「大人なんてかってだ。死のうとする陽子を生き返らせた。」と彼女が怒っていたというのです。彼女は陽子の気持ちがよく分かって、同情したのかもしれませんが。しかし陽子の心に芽生え始めていた、他者へのゆるしを求める心までは分からなかったのかもしれませんが。

この女子高校生の死にショックを受けた綾子は、なぜ陽子を死なせなかったのか、その理由を書かなければならないと思い、『続・氷点』を執筆したのです。(「こころの友」1971年8月号より)

綾子は、なぜ陽子を死なせなかったのでしょうか。

陽子は自分が罪ある者だということに気づき、絶望して自殺を図りました。しかしその陽子を絶望させた罪のために、イエス・キリストが身代わりに死んで、罪を解決してくださっていることを、陽子に知ってもらいたい、と思い陽子を死なせなかったのです。

『氷点』のテーマは、すべての人間の心にひそむ「くろぐろと不気味に息づいて見える」人間の原罪です。この原罪からの赦しは、陽子のみならず、自殺した女子高校生を含め、すべての人が求めていることです。そしてこの原罪の赦しは、イエス・キリストの十字架によって与えられる、というのが聖書のメッセージです。この赦しを、小説を通して伝えるのが三浦綾子の小説家としての使命でした。

(参照 竹林一志著『聖書で読み解く「氷点」「続・氷点」』いのちのことば社刊)

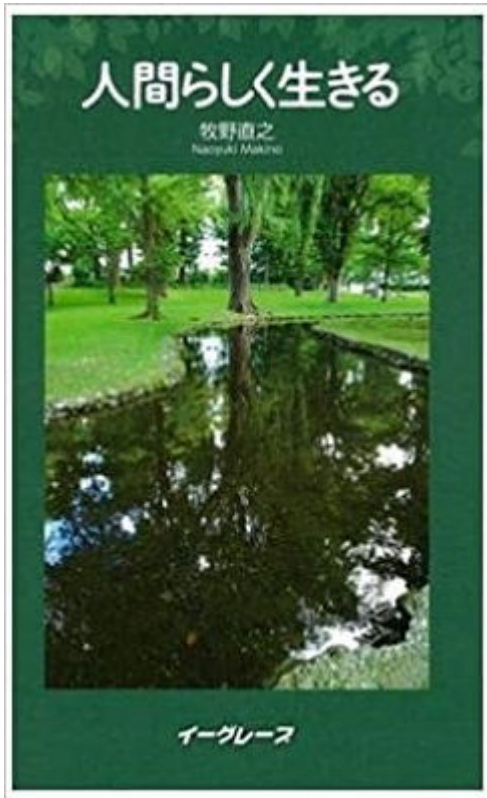
『氷点』で原罪の正体を描いた後に、『続・氷点』で原罪からの赦しを描くことは、三浦綾子が生涯問い続けたテーマであり、自分自身の信仰告白でもありました。

2021年03月08日

.....

「聖書を読んで見ませんか」 黒田 朔

「聖書はむつかしい」とよく聞きます。私はそんな人にお尋ねすることにしていきます。「聖書、お読みになりましたか？」実際のところは、「聖書はむつかしい」と思っているので自分では読まないということなのですね。先月、初めて「聖書を読む会」を開きました。集まったのは最近阪南バイブルチャペルに来ておられる婦人たちで、「人間らしく生きる」(牧野直之著)という小冊子を手掛かりにして聖書を読み、感想は「聖書が



良く分かった」「楽しかった」でした。

聖書は読めばわかる書です。そのためには、先ず、手に取って読んでみる、分からないところにこだわらず、期待を持って分かるところを読んで見ることです。イエス・キリストについて知るにはヨハネの福音書がお薦めです。有名な聖句・ヨハネ 3:16「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」その日のための格言が欲しい時には箴言が最高です。

箴言 14:12,13「人の目にはまっすぐに見えるが、その終わりが死となる道がある。笑うときにも心は痛み、その終わりには、喜びが悲しみとなる。」聖書の言葉には不思議な力があり、あなたの心に光を与え、又、悩みの日には道を示してくれます。

詩篇 119:105「あなたのみことばは私の足のともしび私の道の光です。」

コロナのためにまだしばらくは自粛生活が必要かもしれません。こんな時を良いチャンスとして一度聖書を手に取り、読んでみてくだ

さい。

阪南バイブルチャペルでの集まりにもいつでもご自由にお出で下さい。歓迎します。

2021年03月01日

「なつかしのサラダホール」山里将之



阪南バイブルチャペルからの帰り道、久しぶりにサラダホールを訪れてみました。地元の皆さん良くご存知の通り、阪南市の文化センターです。実は、2019年に阪南バイブルチャペルが今ある尾崎町190-1に居を構える前、教会としての行事や聖書の学び会、お茶やお菓子を頂きながらのおしゃべりの時は、このサラダホールの一室を借りて行っていました。

階段を上って2階、練習室と呼ばれる部屋が2つ、その奥には広めの和室が1つ。どこか一部屋を借りて、月に一回のペースで行っていた集会。私たちは

それを「エリコ集会」と呼んでいました。ある時は宣教師が来られたり。ある時は大学生相手の伝道団体からスタッフが来られたり。盛況な時には30人近くになって、「教会より多いねえ」なんて事も。

2019年の11月からは阪南バイブルチャペルで日曜礼拝が開始。サラダホールでの集会は幕引きとなりました。「もう一年以上、経つんだなあ・・・」エリコ集会を懐かしみ、思い出しました。

サラダホールのように、公民館や地域の集会所が教会の「ゆりかご」になってくれるケースは意外と多

い事、皆さんご存知でしょうか。阪南に限らず、また日本に限らず、世界中で、地元の集会所が教会のスタートになった、あそこの公民館でこの教会は「産声を上げた」、という事は結構あります。思想、信条、宗教上の公平性の観点から、キリスト教会がこうした集会所を利用するという事がそう簡単ではない地域や自治体も少なくないですが、そういう意味では私たちはサラダホールに大変お世話になりました。

新約聖書の中にも、教会ではない所で聖書が語られ、やがてそこに教会が建てられていったという町があります。使徒の働き 19 章 9 節には、エペソという町で、使徒パウロが「ティラノ(ツラノ)の講堂」で毎日、聖書の教えを論じていた様子が記されています。パウロは、最初はユダヤ教の会堂で教えていたのですが、一部のユダヤ人からの妨害にあい、ティラノという哲学者の私塾のような講堂で教えるようになります。それが後に、エペソの教会を生み出していく事になります。

教会は、もちろんクリスチャンを中心として建てられていくわけですが、教会が建つまでには実にたくさんのノンクリスチャンの方々にも協力頂いて、教会は建てられていくなあとあらためて思われます。阪南の地にチャペルが建てられたのも、そのチャペルを建てた貝塚聖書教会も、さらにその貝塚聖書教会を建てた岸和田聖書教会も・・・たくさんの地域の方々のご協力のおかげでそこに教会が建てられています。

教会が地域の皆さんに恩返しが出来るとしたら、それはやっぱり、真の神様の祝福を伝え、喜びを伝えること。イエス様に愛される幸せを伝えること。教会が、地域の祝福と喜びの発信地になれば良いな、と願っています。

コロナの心配がおさまる頃、ぜひ一度、阪南バイブルチャペルをお訪ねしてみてください！ **篇 2 節**
わがたましいよ 主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。

※写真：サラダホールのエントランス

2021 年 02 月 22 日

.....

「使途のペテロ -聖書入門クラスから-」 藤井 貴



写真はバチカンにあるサンピエトロ寺院です。カトリック教会の総本山で、その中にあるシンシナティ礼拝堂を含め、訪れた方も多いと思います。サンピエトロは聖ペテロのことですから、聖ペテロ教会になります。ペテロはイエスキリストの 12 使途の筆頭にいつも名前がでてくる弟子です。2 月 7 日の聖書入門クラスで、このペテロが弟子となったいきさつを学びました。さて、群衆が神のことばを聞こうとしてイエスに押し迫って来たとき、イエスはゲネサレ湖の岸边に立って、岸边に小舟が二艘あるのをご覧になった。漁師たちは舟から

降りて網を洗っていた。イエスはそのうちの一つ、シモンの舟に乗り、陸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして腰を下ろし、舟から群衆を教え始められた。話が終わるとシモンに言われた。「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。」すると、シモンが答えた。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、おことばですので、網を下ろしてみましよう。」そして、そのとおりにすると、おびただしい数の魚が入り、網が破れそうになった。そこで別の舟にいた仲間の者たちに、助けに来てくれ

るよう合図した。彼らがやって来て、魚を二艘の舟いっぱい引き上げたところ、両方とも沈みそうになった。

これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して言った。「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間ですから。」彼も、一緒にいた者たちもみな、自分たちが捕った魚のことで驚いたのであった。シモンの仲間の、ゼベダイの子ヤコブやヨハネも同じであった。イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間を捕るようになるのです。」彼らは舟を陸に着けると、すべてを捨ててイエスに従った。(ルカの福音書 5章 1～11 節)

ペテロはイエスの「恐れることはない。今から後、あなたは人間を捕るようになるのです。」の言葉を受け、「すべてを捨ててイエスに従った。」と弟子としての歩みを始めました。

この箇所ですべてを捨てるとはどういう意味なのでしょう？「捨てる」とは自己放棄や自己犠牲のことでしょうか。もしそうなら、中々捨てられない自分に自己暗示をかけ、やりたいことを我慢することでしょうか。

「捨てる」という生き方は、「自分の人生は自分のものだと思っていたのは、実は神のものだった」、あるいは、「自分の人生と命は神からの頂きものだった」ことに気づくことです。ペテロはこれまで漁師として自分の力に頼って人生を歩んできました。しかし、昨夜夜通し働いたが何一つ捕れなかったところ、大工出身のド素人のイエスに言われて網を下ろすと大漁だった経験をし、自分の無力さと罪深さに気づき、「自分の人生は自分のもの。自分が自分のことを一番知っている」という生き方を捨て、「自分の人生と命は神からの頂きもの」であることに気づきました。「生まれる」は英語で、「I was born」と受動態で表現します。自分の意思で生まれることはできないからです。まさに、自分の人生も私たちを生かしてくださる神からの頂きものではないでしょうか。

阪南バイブルチャペルでは毎週日曜日の礼拝後、聖書の学びを行っています。4年かけて聖書全体をカバーする学びです。よろしかったらご参加ください。

2021年02月15日

『氷点』への批判に答えて 辻 喜男

クリスチャン作家三浦綾子(五) 『氷点』への批判に答えて

三浦綾子の小説『氷点』が、1964年12月9日から翌年の11月14日まで朝日新聞朝刊に連載され、大きな反響を呼びました。また連載後はテレビドラマや映画にもなり、舞台でも上演され、一大『氷点』ブームが巻き起こりました。

しかし一方、『氷点』に対する手きびしい批評もありました。ある文芸評論家から「こんな無理な設定による小説を読んだことがない」と酷評され、その意見に共感する人々もいたようです。彼らの意見は、「いかに小説といえ、自分の子どもを殺した犯人の、その子どもを引き取るなどという発想は、あまりにも不自然で読むに堪えない。」というものでした。

そのような批判に対して、綾子自身はものごとくにこだわらない性格でしたが、さすがに平然としていられなかった様子であった、と夫光世が記しています。

しかし綾子は、ある日京都の講演に出かけたとき、驚くべき話を聞かされたのです。一人息子を殺されながら、その犯人を許すことができたクリスチャンの婦人が実際にいたという話です。綾子はこの話を聞いて、『氷点』の内容が、必ずしも無理な設定でなかったことを知って安心しました。

綾子はこのクリスチャン婦人の手記が、女性向き月刊誌で紹介されたとき、雑誌編集者の求めに応じ

て「事実小説よりも感動的である。」という文章を書いています。「小説『氷点』に対していろいろお便りをちょうだいしました。そんな中で、自分の子を殺した犯人の子をひきとるなんて、そんなことが現実にあるのか、いやあり得ない、という意味のお便りがかなりありました。」だが私の心の隅で、「いや、この広い世の中で、一人ぐらいはそんな人間がいるのではないか、という思いもないわけではなかった。」そんなときこの話を聞いて綾子は大変感動しました。「私の知っている言葉では、この人(クリスチャン婦人)をたたえるのにふさわしい言葉がないだろう。いかに真実な信仰が、人を真実な愛の人になし得るかということを知って、私は心から神をほめたたえずにいられない。まさに事実小説よりも感動的である。」と文章を結んでいます。(『マドモアゼル』1966年5月号に掲載)

(参考・三浦光世著「三浦綾子創作秘話」小学館文庫判)

2021年02月08日

.....

リタイア生活は余生か本番か 黒田 朔



「お前、いつ勉強するのだ」いつものようにTVの前で寝転んでいる息子に父親に言います。「勉強して何になるの」「そりゃ一流企業に入れる」「それで?」「良い給料貰って..」「それで?」「良い嫁貰って..、出世して..、家でも建てて..、定年を迎え..、ゆっくりしたらいい」息子は言います。「僕、今、ゆっくりしているから、ほっといてよ!」笑えない笑い話だと思いませんか。

生前、日野原重明先生に近づくリタイアの話をしたとき、「いよいよ本番ですね」と言われたことを思い出します。つまり、「人は仕事、子育て、家族

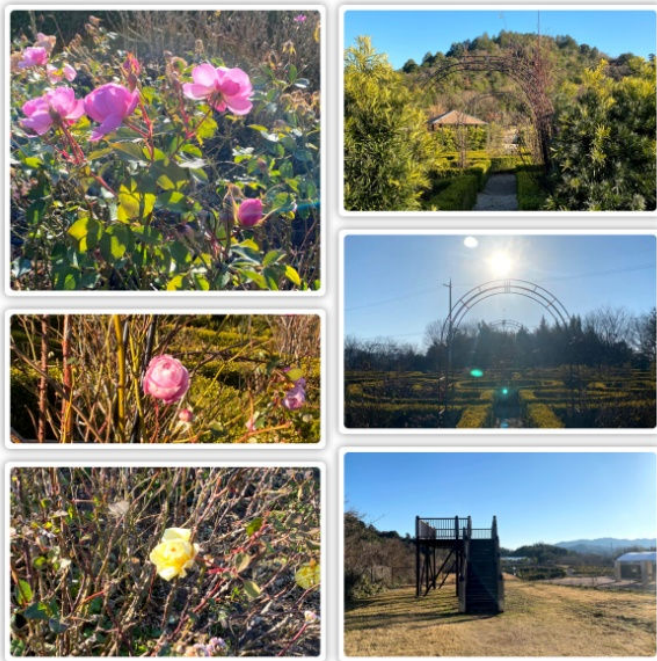
の世話から解放される時、やっと自分の持ち時間を自分らしく、自分の考え通りに使うこと、自分の生活をデザインできる人生の本番を迎えるのですよ。」という意味であったのだと思います。100歳人生と言われる今、定年が65才に延長されても35年の時があります。その35年を「余生」とするか「本番」とするかで毎日が変わります。

もうすぐリタイア生活2年目を迎えようとしている私自身、「今」を人生の本番とするにはこれで良いのか、毎日を自分らしくデザインしているかともう一度考え始めています。あなたにとってリタイア生活は「余生」ですか、「本番」でしょうか。一緒に考え、話せる仲間となれるなら、うれしく思います。

「私たちの齢は七十年。健やかであっても八十年。しかも、その誇りとするところは労苦とわざわいです。それは早く過ぎ去り、私たちも飛び去るのです。..それゆえ、私たちに自分の日を正しく数えることを教えてください。そうして私たちに知恵の心を得させてください。」(旧約聖書 詩 90:10, 12)

2021年02月01日

時が来れば咲く花のように



みなさんこんにちは。貝塚聖書教会の山里です。

世界中がコロナの対応に迫られる中、1/14(木)にはここ関西地域でも緊急事態宣言が再発令となり、外出を控えるように心がける期間を過ごす事となりました。本当に、早くこの問題が解決へと向かうように、心からお祈りしています。

そんな中でも教会としての営みとして、貝塚から阪南BCまで出かける用事がありますので、「必要・要急」の範囲で移動。その道すがら…ちょっと寄り道にはなりますが…、阪南市のお隣の泉南市にある花咲ファームに立ち寄ってみました。ご近所ですから訪れた事のある方も多いでしょう。もちろん、マスク着用、車からなるべく降りない、といった基本原則を心得てなんですが、さすがに緊急事態宣言期

間中、しかもバラは季節外れ。作業をしている従業員の方の他は誰もいませんでした。

100m 規模のソーシャルディスタンスを確保しつつ、閑散とした園内を歩いてみると、季節外れながらも咲いているバラがいくつか。もともとバラは繊細なイメージとは裏腹にかなり生命力は強い植物だとか。新年の青空のもと、私たち人間はコロナの中でひっそりと耐え、コロナ克服、解決の時を待ち望んでいますが、同じように時が来るまでしっかりと根を張り、つぼみをつけ、時が来れば花を咲かせるバラの姿にも何か励ましを頂くような思いがしました。

聖書、イザヤ書の 27 章 6 節にこんなことばが登場します。

時が来れば、ヤコブは根を張り、
イスラエルは芽を出し、花を咲かせ、
世界の面を實で満たす。

神様に選ばれ、世界に祝福を届けるために用いられるはずであったヤコブの子孫、イスラエル民族。しかし残念な事に、罪を繰り返し、そこから離れる事が出来なかったために、とうとう神様の裁きを招いてしまいます。

しかし、そんなイスラエルにも必ず回復の時が訪れる。時が来れば花を咲かせ、世界中を豊かな実りで満たす植物のように、時が来るまでは、寒空の下で根を張り、芽を出す春を待つ時期がある。神様は、確かに罪を裁かれるのですが、同時に回復の約束をも与えて下さっています。

裁きだけでなく、試練や困難といった経験も、神様は敢えて私たちに与える事があります。決して私たちが憎くてそうなるものではありません。まったく逆で、試練や困難を通して、試行錯誤し、創意工夫し、変化していく中で、私たちが成長し、より大きな幸せを手に入れる事が出来るように願って、時として神様はそうなるのです。

今、私たち全人類が向き合っているコロナの問題もその一つかも知れません。また、コロナだけでもありません。たとえば、受験生の皆さんにとっては、今はまさに試練の時。自らを試す時ですよね。他にも、今、あなたが何か試練や困難を経験されているとしたら、それはもしかすると、しっかりと根を張り、力強く芽を出すための準備の期間として神様が備えた時なのかも知れません。時が来たときに、素晴らしい花を咲かせ、豊かな実を結ぶ事が出来るように。

大変な時期ですが、必ず解決の時が与えられるはずですが。今はまだ冬空の寒さのもとにあります。もう

すぐ春が来ます。今はしっかりと根を張る時。その先に必ず、花を咲かせる時が来る。そう信じて、今の時を乗り越えて参りましょう。

※写真:冬空の下でいくつか咲くバラ。花咲ファームより。

2021年01月25日

.....

コーヒーと聖書 藤井 貴



高校生だった50年近く前、和歌山市駅の高島屋でコーヒー豆を買ひ、はじめてレギュラーコーヒーを飲みました。それ以降ずっと飲み続けていますが、色々な器具を試し、60歳前には、時間短縮のため豆と水を入れると全自動でコーヒーを淹れる器具に至りました。しかし、リタイヤした最近は時間ができたこともあって、コーヒー豆の焙煎と淹れ方をマニュアルで行い、味の変化を楽しんでいます。コーヒーは最初に酸味が抽出され、苦みは時間に関係なく抽出されますが、淹れる時間や温度の影響を変えながら、化学の実験のように味の違

いを確認しています。

ご存知のように、コーヒーの原産地はエチオピアと言われています。エチオピアの高原では今でも野生のコーヒーの木を見ることができます。10～11世紀ごろ、エチオピアからアラビア半島に伝えられ、薬用として用いられた記録が残っており、14世紀になるとコーヒーを飲む習慣が、トルコやエジプト、イラクなどのイスラム教寺院に伝えられていきます。14～15世紀には、焙煎という手法が見出され、コーヒーが飲み物として広がっていきました。1640年にはイエメンから初めてヨーロッパに輸入されるなどして、本格的に広がり始めました。17世紀後半になると、イギリスではコーヒーハウスが、フランスではカフェが人気となります。そこは単にコーヒー飲む場所ではなく、交流の場であり、思想、政治、文化等に大きな影響を与えたのです。

聖書の時代には「コーヒー」はありませんが、「エチオピア」は使徒の働き8章27-28節に出てきます。そこで、ピリポは立って出かけた。すると見よ。そこに、エチオピア人の女王カンダケの高官で、女王の全財産を管理していた宦官のエチオピア人がいた。彼は礼拝のためエルサレムに上り、帰る途中であった。彼は馬車に乗って、預言者イザヤの書を読んでいた。

彼が読んでいたのは、イエスキリストの贖いの十字架の苦悩を預言したイザヤ書の記事でした。続く32-33節を見ると、彼が読んでいた聖書の箇所には、こうあった。「屠り場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている子羊のように、彼は口を開かない。彼は卑しめられ、さばきは行われなかった。彼の時代のことを、だれが語れるだろう。彼のいのちは地上から取り去られたのである。」元のイザヤ書ではさらに次のように書かれています。

虐げとさばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことか。彼が私の民の背きのゆえに打たれ、生ける者の地から絶たれたのだと。彼の墓は、悪者どもとともに、富む者とともに、その死の時に設けられた。彼は不法を働かず、その口に欺きはなかったが。しかし、彼を砕いて病を負わせるこ

とは主のみこころであった。彼が自分のいのちを代償のささげ物とするなら、末長く子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。「彼は自分のたましいの激しい苦しみのあとを見て、満足する。

わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を負う。それゆえ、わたしは多くの人を彼に分け与え、彼は強者たちを戦勝品として分かち取る。彼が自分のいのちを死に明け渡し、背いた者たちとともに数えられたからである。彼は多くの人の罪を負い、背いた者たちのために、とりなしをする。」(イザヤ書 53章8～12節)そのエチオピアの高官はどうなったでしょうか？ 続「使徒の働き8章36-38節」には、イエスの十字架の贖いを信じて、バプテスマを受けたと記載されています。

コーヒーを飲みながら、聖書の言葉に思いを寄せるのは如何でしょうか。阪南バイブルチャペルも、新型コロナが収まってくれば、皆様の交流の場となれるように毎週土曜日にカフェチャペルを再開する予定です。(ホームページで案内させていただきます)。

2021年01月18日

クリスチャン作家 三浦綾子(四)「氷点」のテーマ 辻 喜男



朝日新聞が「氷点」の当選を発表した日の社会面には、「キサクな雑貨店の主婦」という見出しで、三浦綾子夫婦の写真と作者綾子を紹介する記事が出ていました。「三浦綾子さんは当選の知らせに喜びと興奮に顔を輝かせた。そして間もなく、しんとした表情にかえた。大きな夢が実現したと同時に、自分と違った別の自分が歩き出した。そんな不安がよぎってきたのか、めい目のあとクリスチャンらしく祈りをささげた。」

さらに記事本文には、「「原罪」をテーマにした「氷点」という言葉が大活字で記され、執筆時の様子が紹介されています。「かつて闘病中「癒えぬまま果つるか、癒えて孤独なる者に耐えるか吾が未来は」と行く末の不安を嘆いた本人とは思えぬ精力的な毎日だった。執筆中も寝る前に必ず主人と旧約聖書を一章ずつ読んだ。」と記されていました。

(1964年7月10日付朝日新聞記事より引用)。

「氷点」がテーマにした「原罪」とはいったい何でしょうか。またそれはどのように描かれているのでしょうか。「氷点」の冒頭は、次のような描写で始まっています。「風は全くない。東の空に入道雲が、高く陽(ひ)に輝やいて、つくりつけたように動かない。ストロブ松の林の影が、くっきりと地に濃く短かかった。その影が生あるもののように、くろぐろと不気味に息づいて見える。」小説の冒頭はどんな作品でも重要ですが、「氷点」のこの文章は、作品のテーマを象徴的に語っています。くろぐろとした松林の影が、まるで不気味な生きもののように見えた、ということです。そしてこのくろぐろとした不気味なものは、これから登場するすべての人物の心の内に潜んでいることを、綾子は書こうとしたのです。特に辻口啓造と夏枝の家庭は、人間としてまた医師として信頼があり、何の問題もないような人々です。

ところが何か問題が起こると、突然人間の本性が出てきて自己防衛にはしり、自己の正当性を主張し、自分中心にしか考えられない者になってしまいます。私たちも真剣に自分の心の中をのぞき込むなら、本当に思い上がった姿をしている自分に気づきます。綾子は人間のそのような、自分ではコントロールで

きない思いを、くろぐろとして不気味に息づいているような影の中に見たのです。

なかでも主人公である陽子にも、自分を正しいとする思い上がった心が潜んでいたことを描いています。彼女の持っていた「自分を正しい」とする思いこそ、まさに「原罪」の正体であることを描こうとしたのです。陽子が自殺をしようとして書いた遺書の中に表されています。「今までどんなにつらいときでも、じっと耐えることができましたのは、自分は決して悪くないのだ、自分は正しいのだ、無垢だという思いに支えられていたからなのです。」綾子はこの陽子の遺書に、自己中心で、自分を正しいとする問題点、すなわちすべての人に潜んでいる「原罪」を描いているのです。

聖書では神を無視して、自分を正しい、とする性質は、人類の祖先であるアダムとエバが神に背いたことから始まっていると教えています。しかし同時に聖書は、すべての人間に及ぶこの「原罪」からの救いも語っています。陽子は「続・氷点」によって、本当の救いと赦しに目覚めていくことになります。

2021年01月11日

「コロナの先に何が見えますか」黒田 朔



いよいよ年の瀬を迎えました。往く年、来る年を思い見る時をお過ごしでしょう。

今年はコロナで明け、誰もが想像もしていなかった暮れを迎えています。そして世界中が今、コロナの影響を最小限に抑えて、日常を取り戻そうと必死で取り組んでいます。しかし、日常を取り戻すということは必ずしもコロナの前の生活そのままに戻るのではないことを考えておくことは大切です。

コロナ対策として、職場も学校も、飲み会からお里帰り迄「リモート作戦」、新手を考え出して取り組みました。日頃、「ぜひお出でください」と招いていた教会ま

でが「来ないでください、リモート礼拝をどうぞ！」とお勧めしました。

先日、私たち夫婦はハワイのファミリードクターによるリモート健康診断を受けました。また、暮れには、例年カリフォルニアで開かれる集会在リモートで開かれ、500人以上が文字通り世界中から参加しました。それも、只、講演を聞くだけではなく、少人数に分かれて話し合い、丸で、同じ会場にいるような親しさを感じました。私のグループはシカゴ、サンフランシスコ、北海道、ハワイ、そして、私の大阪の尾崎からでした。コロナがなければ、誰も考えもせず、いつも通りの集会で終わったことでしょう。

だから良かったというのでも、こうしたほうが良いというではありません。ただ、コロナ前と同じに戻らなくてもよい、いいえ、この際、コロナ対策で経験したことで、今後に活かしたら良いこともあると申し上げているのです。

コロナとの戦いに取り組んでくださる皆様の安全と健康を祈り、コロナ禍を通して経験したことを振り返りながら、新年の夢を見たいものです。

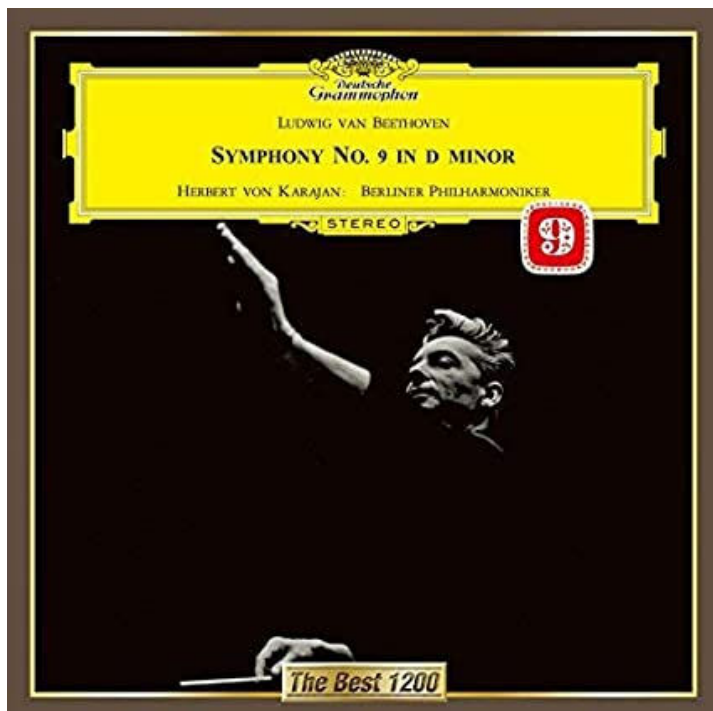
見よ、私は新しいことを行う。 今、それが芽生えている。

あなたがたは、それを知らないのか。 必ず、わたしは荒野に道を、 荒れ地に川を設ける。

旧約聖書 イザヤ43:19

2020年12月31日

ベートーヴェンの 250 年目のお誕生日 藤井 由美子



12月16日はベートーヴェン(1770年12月16日に誕生とされています)の250回のお誕生日でした。今年はよく「ベートーヴェン生誕250年」という言葉を聞きます。

数あるベートーヴェンの曲のなかでも年末恒例になっている「第九」は日本人の皆さんが一番好きで有名なのではないでしょうか？

ベートーヴェン以前の作曲家、モーツァルトさえも教会や宮廷に仕え雇い主の好みに合わせるように作曲し、その曲は限られた場所、身分の高い人の前で演奏されたようです。ベートーヴェンは個人に仕えず自立した自由な立場で作曲し、音楽を市民が劇場で聞いて一緒に口ずさみたく

なるような身近な芸術に変えていきました。ベートーヴェンは20代から難聴に苦しみ9番目の交響曲を作曲した頃にはほとんど聞こえていなかったようです

その中の合唱「歓喜の歌」は、フランス革命の精神に感動した彼が詩人シラーの歌詞に作曲しました。「すべての人々がみな兄弟になる」「抱き合おう幾百万の人々よ」というメッセージが歌われています。日本では第一次大戦時徳島県鳴門市の捕虜収容所でドイツ人捕虜によって日本初の第九が演奏され、その1年半後福岡県久留米市の収容所でドイツ人捕虜によって演奏されました。今も大阪の「一万人の第九」、大阪市大正区、そして私たちの阪南市でも毎年演奏されます。残念ながら今年は中止されるところが多いですが。

ゴスペルでも映画「天使にラブソングを」で有名になった「ジョイフル、ジョイフル」は第九のメロディが使われていますし、どの讃美歌にも歌詞は違いますが第九のメロディが使われています。

こんなにみんなに愛されている曲を作ってくれたベートーヴェンさん、心からお誕生日おめでとうございます！

「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい」(ピリピ人への手紙4:4)
喜ぶことの大変だった2020年、最後に小さなことを見つけて「喜び」で終わりたいです。

2020年12月22日

みなさんこんにちは。貝塚聖書教会の山里です。



毎年、クリスマスが近づくと、街のあちこちでイルミネーションを目にすることが出来て、とても華やかになりますよね。ここ数年では家庭用のイルミネーションもだいぶ普及してきていて、場所によってはB級グルメならぬB級観光地となっているような所もあって、道行く人々の目を楽しませてくれます。

…クリスマスの本家のはずのキリスト教会がかえって地味に感じられるほど、なんて言うとも蛇足かも知れませんが…

ただ、残念ながら今年は、やはりコロナの影響

があっただと思いますが、例年にくらべると街も住宅地も、良く言えば「落ち着いた」雰囲気になっていますが、ストレートに言えばやはり「少しもの寂しい」クリスマス・シーズンだな、と感じています。コロナの問題がいち早く解決し、また今、病と闘っておられる皆様のために、私たち貝塚聖書教会、阪南バイブルチャペル一同も心からお祈りしているところです。

でも、この「落ち着いた」、「少しもの寂しい」今年のクリスマスは、考えてみると「世界で最初のクリスマス」の出来事とむしろ近い経験をさせて頂いているのかも知れません。イエス・キリストがお生まれになった時代、人々は救い主の誕生を心待ちにしていました。それは、裏を返せば「誰かに救っていただけなければやっていけない現実」が人々の身近に迫り、あふれていた、ありふれていた、という事でもあるわけです。

神様、助けて下さい！ この現実を何とかしてください！

人々の願いに応えるように、待ちに待った救い主がお生まれになりました。それは荘厳な神殿の中でもなく、きらびやかな王宮の中でもなく、都の郊外のわびしい所で起こった出来事でした。生まれがばかりの赤ちゃん、イエス様は、父ヨセフ、母マリア、ともども宿を取ることが出来なかったため、飼い葉桶に寝かしつけられたとあります。伝統的には、「飼い葉桶」があったという事から、「馬小屋で生まれた」という言い伝えが広く知られていますが、実際には馬小屋であったかどうかさえ分かりません。動物を放牧する牧場の片隅だったかも知れないのです。ともかく、飼い葉桶がそこにある、いや、飼い葉桶しかない、そんな場所で、救い主はお生まれになりました。

そんな、ひっそりとした、救い主誕生の出来事が「世界で最初のクリスマス」なら、それを照らし出したのが「世界で最初のクリスマス・イルミネーション」だった事になります。もちろん、電気ではありません。おびただしい数の天使たち、「天の軍勢」と呼ばれる御使いたちの輝きが、野宿をしながら羊の群れの夜番をしていた羊飼いたちを照らし出したのです。

御使いたちは、イエス様の誕生を祝い、歌いました。

「いと高き所で、栄光が神にあるように。

地の上で、平和が みこころにかなう人々にあるように。」

…ルカの福音書 2 章 14 節。

これは、「世界で最初のクリスマス・キャロル」と呼べる出来事だったのかも知れません。羊飼いたちは「世界で最初のクリスマス」に立ち会い、「世界で最初のクリスマス・イルミネーション」を目にし、「世界で最初のクリスマス・キャロル」を聞いた事になる、そんなふうに見えるのかも知れません。それは、救い主の到来を人々が願い、「誰かに助けてほしい」という現実があふれていた時代の、人目につかない、もの寂しい場所での出来事でした。

今年のクリスマスは、「落ち着いた」、「少しもの寂しい」クリスマスになるのかも知れませんが、このような中でこそ、あの羊飼いたちが目にし、耳にした、「世界で最初のクリスマス・イルミネーション」、「世界で最初のクリスマス・キャロル」の喜びに近づけるのかも知れませんね。

※写真: 阪南スカイタウンからの夜景。

イルミネーションは目立ちませんが、人々の温かい営みを感じさせられる優しい光に満ちています。「世界で最初のクリスマス・イルミネーション」は、案外、こういう感じだったかも知れませんね。

2020年12月14日

クリスマスキャロル 藤井 由美子



キャロルとは、元々は踊りのための民謡でしたが、現在は礼拝で歌われる讃美歌の1種になっています。代表的なのはクリスマス・キャロルですが、イースター・キャロルということもあります。フランス語の Caroller(サークルダンス)更にはラテン語の Choraula に由来するとされています。クリスマスの讃美歌といえば「きよしこの夜」が思い浮かびませんか？この曲のことを少しお話させていただきます。

♪「きよしこの夜」 オーストリア 原詞はドイツ語「Stille Nacht」

作詞:ヨゼフ・モール 作曲:フランツ・クサーヴァー・グルーバー

1818年12月25日にオーストリアのオーベンドルフの聖ニコラウス教会で初演されました。クリスマス・イヴの前日、教会のオルガンの音が出なくなっていました。(ネズミにかじられたという説があります)クリスマスに賛美する讃美歌の伴奏ができなくなり、急遽ヨゼフが「Stille Nacht」の詞を書き上げ、グルーバーにギターで伴奏できる讃美歌に作曲してくれるように依頼しました。グルーバーは初め「教会でギターを弾いて誰も気に入らないのではないかと」悩みましたが、ヨゼフに説得され一生懸命考え、一晩で完成させました。曲が完成したのはミサの始まる数時間前だったとか。近年の研究では、数年前にヨゼフは詩を完成していたという説が有力ですが、グルーバーが短時間で作曲したのは正しいと推察されています。

日本語の歌詞は由木康が付け、1902年に讃美歌第二編に収録されました。1961年から1988年まで小学校6年生の教科書に掲載されていました。中学校では英語教育も兼ねて英語の歌詞で歌われています。

「ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は『不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君』と呼ばれる」イザヤ書9章6節
みどりごのイエスさまがお生まれになったこの「きよい、嬉しい夜」を賛美する歌です。

クリスマスキャロルを12月20日(日)午前9時からクリスマスコンサート礼拝で賛美します。ご興味がお有りのかたは是非お越しください。

2020年12月07日

1964年(昭和39年)7月10日金曜日、朝日新聞朝刊一面に「一千万円懸賞小説 当選作品きまる」という大きな囲み記事が掲載され、「当選『氷点』三浦綾子 賞金一千万円」と発表されました。そしてその前文で、次のような挨拶文が掲載されていました。

「朝日新聞大阪本社創刊85周年ならびに東京本社75周年記念一千万円懸賞小説は、先に社告したように応募総数731編のうち11編を第二次通過作品として発表いたしました。最終審査の結果「氷点」(三浦綾子)が当選と決定、賞金一千万円をお贈りいたします。

なお、第二次選考にパスした作者のご努力に酬いるため、当選作品のほか特に二席3編には、それぞれ20万円を、また選外佳作8編には記念品(時計)をお贈りすることになり、21日午後1時から朝日講堂(朝日新聞東京本社6階)において授賞式を兼ね、文芸講演会を開きます。応募者各位はじめ、読者のみなさまのご支援に厚く感謝いたします。」(記事全文)

この記事には驚くべき数字が記されています。一つは懸賞小説に応募した作品総数が、731編あったことです。プロ、アマを問わず応募した多くの作品の中から、初めて長編小説に挑戦したアマチュア作家三浦綾子が当選したことは、まさに奇跡でした。もう一つは賞金の一千万円です。「一千万円懸賞小説」として募集したことから当然ですが、当時のこの金額は現在に換算して約十倍の一億円になります。この企画に期待した朝日新聞社の意欲の大きさを感じます。

ところでこの賞金を贈られた三浦綾子・光世夫妻は、このお金をどう使ったかは、綾子の死後、光世自身が書き残しています。

一千万円のうち45%は税金として納め、手元に残ったのは550万円でしたが、それにしても550万円は大金です。しかし彼らはこの時を、喜びだけでなく人生最大の危機と受けとめ、いつさい自分たちのためには使わないと決めたということです。「金銭欲は諸悪の根源」と言ってお互いを戒め合ったということも書いています。まずその使いみちは、綾子の13年間に及ぶ療養費の借財の返済であり、また教会や信仰の友などの援助への返礼でした。

徹底して自分たちのために使わなかったことを表すエピソードとして、綾子がせめてテレビの一台は欲しいと申し出たが、実際にテレビを購入したのは10年後のことでした。この夫婦がお金に対して、ここまで危機感を抱いたのは、新約聖書の次のような教えに従おうとしたからでした。「金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。」

三浦綾子・光世の二人は、その作家生涯の始めから、終わりまでクリスチャンとして一貫した姿勢を崩さず、聖書を読み、祈り、神の愛とゆるしを伝える作品を書き続けました。

(朝日新聞の記事及び三浦光世著『三浦綾子創作秘話』(小学館文庫版)を参考)

2020年12月01日

「コロナが収まると、何を始めますか」 黒田 朔

阪南バイブルチャペルは11月で丸1年を迎えました。コロナは一向に収まる気配がないまま、クリスマスや年の暮れに近づき、パーティや忘年会、正月帰省も自粛傾向です。しかし、同時にいつものことができなくなる自粛ムードからそれならいっそう新しいことを始めたらどうだろうというチャレンジムードも芽生え始めています。



3 蜜回避で変わりつつある通勤の仕方、リモートで十分なら勤務体制の改革、職場が変われば学校や家庭も変えられないかと考えます。何も今までと同じでなくても良い、不自由でしんどいのなら、もっと自由で楽しめる姿に変えれば良いのでは・・・と考え始めます。

実は、今日、私たち阪南バイブルチャペルのルーツともいうハワイでお城の教会として知られているマキキ聖城キリスト教会の同窓会がオンラインで開かれました。1970年代から今までの50年間に世界の各地に出て行っている皆さんが懐かしい再会を喜び、楽しみました。年齢は赤ちゃんから90歳、場所はアメリカ、ハワイ、日本各地で沖縄まで。終わった後「こんなことができるなら、もっと色々出来るよね」と次の夢が広がりました。

コロナが収まるまで待つことはありません。多くを失い、払った痛みを思い、今だからできる心を通わせ、よろこびを分け合える新しい在り方をみつけないと思いません。クリスマスが近づきました。このクリスマス、あなたも一緒にあなたを豊かにする新しい何かを見つけて見ませんか。

2020年11月24日

.....

「たいせつな命綱」山里将之

みなさんこんにちは。貝塚聖書教会の山里です。



以前、9月21日の「チャペルの窓」には泉南ロングパークについてお話ししましたが、今回もこの大好きな海辺の公園のお話です。

11月3日、文化の日の祭日に、子どもたちとアスレチックを楽しみました。オープン当初からずっと「やってみたい！」とねだっていた子どもたち。ようやく念願かなったのアスレチックです。

アステチックと行っても、そこらの公園の「遊具」とは別次元。行かれた事のある人はご存知の通り、鉄骨三階づくりで最下層を合わせると四層、最高

地点はなんと地上15.5mの本格派！遊ぶためにはセーフティジャケットを着用して、ライフライン、文字通り「命綱」をフックにかけながら進んでいく格好です。小学生の子どもたちには負けられない、とはりきりましたが、案の定、翌日は筋肉痛でした。

セーフティジャケットの着用とライフラインのワイヤー操作は、慣れないと窮屈で、なんだかわずらわしく感じます。ところがいざ地上高く歩いていろいろな仕掛けに挑戦する時には、このジャケットとワイヤーのおかげで、「とりあえず落ちる心配はナシ」という事で、いろいろ試す事が出来ます。しっかりと拘束されてい

る。だから、自由にチャレンジ出来る。拘束と自由、普通は真逆に思われる事の、面白いハーモニーに気付かされました。

聖書のみことばを通して私たちをお教え下さる神様との関わりも、良く似ているな、と思いました。「○○してはならない」。有名なモーセの律法、特に十戒にはたくさんの教えが記されています。禁止や命令、あるいは警告。普通、私たちはこうしたものを窮屈で不自由なものと感じると思います。けれどもこれが、人生を恵み豊かなものとし、喜びあふれるものとするための「たいせつな命綱」と考えてみたらどうでしょうか。何が起こるか分からない明日を、不安や心配よりむしろ、期待と希望をもって自由に生きていく力になるのではないのでしょうか。聖書には、そのような人生の命綱とも言える大切な教えがたくさん教えられています。

聖書に興味をお持ちでしたらぜひ、お近くの教会をおたずね下さい。それが阪南バイブルチャペルや貝塚聖書教会であればなお嬉しい限りです。あなたにちょうど良い「セーフティジャケット」と「ライフライン」がきっと見つかりますように。そして人生を自由に楽しく過ごす勇氣と力が与えられますように。

聖書 ヨハネの福音書 8章 31-32 節

イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。

「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。

あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

写真はストレッチに興じる私です。^^

では、またよろしく願いいたします。

2020年11月17日

.....

阪南聖書教会？ 藤井 貴

この11月は阪南バイブルチャペルの1年目の誕生日です。昨年11月3日に礼拝を開始しました。正式名称は「福音交友会 貝塚聖書教会 阪南バイブルチャペル」、現在は貝塚聖書教会のチャペル(伝道所)ですが、「福音交友会 阪南聖書教会」として自立することを目指しています。

「福音交友会」とは何だろうと思われる方もおられると思いますが、Wikipedia では、「福音交友会 Japan Gospel Fellowship は、大阪府堺市に本部を持つプロテスタント福音派の団体。日本福音同盟に加盟している。泉州、京都、奈良、和歌山に教会を持ち、教会は全て地名+聖書教会と云う名前を持つ。なお、マキキ聖城教会と交流が在る。」と紹介されています。戦後、アメリカ本土、ハワイから来日した3人の女性宣教師を中心に始められた教会で、聖書を「信仰と生活の唯一絶対の規範」とする(聖書を大切に)教会です。

聖書を大切にすることでは、先の10月31日はマルティン・ルターがヴィッテンベルクの城教会に「95か条の提題」を貼り付けた宗教改革記念日でした。宗教改革は当時のローマ・カトリック教会からプロテスタント教会が独立した運動と見られがちですが、この改革の根本的な意図は教会組織の改革ではなく、信仰の改革であり、それはすなわち、聖書の御言葉に立ち返る運動であり、聖書が証しする神の恵みによって、人は救われ、その恵み深い神への信仰(信頼)によってのみ人は義人とされるということでした。(信仰のみ、恵みのみ、聖書のみ)

聖書の中に、

…聖書はあなたに知恵を与えて、キリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。

聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。神の人がすべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。(テモテへの手紙 第二 3章 15～17節)と書かれています。

阪南バイブルチャペルのホームページの「聖書のお話」を開いていただきますと、毎週の聖書からのメッセージを動画(YouTube)で見ることができます。是非、ご覧になっていただき、聖書の中にある宝を発見してください。

2020年11月09日

.....

クリスチャン作家 三浦綾子(二) —『氷点』誕生秘話— 辻 喜男

三浦綾子が『氷点』で作家デビューのきっかけとなったのは、朝日新聞社の社告を目にしたことでした。

1963年元旦の朝日新聞一面に掲載された社告は、次のような内容でした。

「懸賞小説募集 枚数:一千枚 賞金:一千万円 資格:プロ、アマを問わず」

その日、綾子はこの記事を読みながら「私には無縁のこと」と思ったそうですが、翌日になって綾子は、夫の光世に「一つの小説のあらすじができたの、書いてもいい?」と同意を求めてきました。光世の同意を得て、綾子は直ちに全体の構成や人物設定を考え始め、1月9日には執筆を始めました。さらに三日後の12日には、この小説のタイトルも決まりました。『氷点』というタイトルは、実は光世の提案でした。当時、旭川営林局に勤務していた光世が、寒い朝通勤のバスを待っているとき、ふと頭に浮かんだタイトルでした。綾子もこのタイトルを喜び、小説『氷点』誕生に向けて、夫婦の戦いの日々が始まりました。

この一年、綾子は雑貨店を、光世は営林局の仕事を抱えながらの執筆でした。コピー機など持っていなかった家庭で、綾子の原稿を光世が一枚一枚書き写していたというのです。そしてようやく『氷点』の執筆を終えることができたのは、すでに12月31日の午前1時になっていました。その原稿を光世が、午前2時までに小包にしてその夜の眠りに就きました。31日の午前11時ごろ、光世がその小包を旭川郵便局本局に持ち込み、12月31日の消印を確認して発送しました。その日が提出期限の最終日でした。

しかし、もともといろいろな病気を抱えていた二人です。原稿を発送した翌年の一月、光世が急性肺炎にかかり、さらに綾子が光世の看病の疲れからか、自宅で階段を踏み外し、尾骶骨を打って、下手をすれば一生体が不自由になるほどの怪我を負ってしまうこともありました。

そして1964年7月10日付朝日新聞一面に、「当選作品きまる 当選 三浦綾子『氷点』」と掲載されました。この時以来、夫婦二人三脚の執筆活動が始まりました。綾子は雑貨店を閉めて作家活動に専念し、光世もまた体の弱い綾子を助けるため営林局を退職しました。光世は綾子のマネジメントとともに、綾子の口述を筆記することで多くの作品を発表していきました。三浦綾子の作品の原点は、夫婦がともにクリスチャンとして、神さまの愛と赦しを伝える作品を書きたい、という願いと祈りにありました。実際に多くの人々に感動と生きる勇気を与え続けることができたのは、書いていることと、この夫婦の生き方が一つとなっていたからでした。

(以上の文章は、三浦光世著『三浦綾子創作秘話』(小学館文庫版)を参考にしました。)

2020年11月02日

.....



「この頃どうしてる？」「う～ん、特別に何も・・・」「医者に行き、買い物に付き合
い・・・」勿論、中には「忙しいのよ、隣組
の仕事が回ってきて、趣味の絵も描きた
いし、会いたいけど時間が取れないわ。」
と言う友もいる。確かに、年のとり方
には色々あります。

今年 80 歳を迎えた私たちは「上手に年
を取りたいね」と夫婦で話し合っ
て尾崎に開かれたばかりの阪南バイブル
チャペルに住ませてもらうことに
しました。尾崎は母校鳥中(鳥取中
学校)がある街で、新婚時代を阪南
市の箱作、今の箱の浦で過ごした私
たちにとっては55年ぶり

の故郷帰還となりました。今はコロナ禍で思うように旧友を訪ねることができません。

それでも街で思いがけない人と出会い、鳥中を卒業以来の昔話に花を咲かせ、それぞれの人生に触れ、感動し、尾崎に戻って良かったと 80 歳の決断をグッドチョイスだったと喜んで

います。丁度 10 年程前、私たちがハワイのお城の教会で知られているマキキ聖城キリスト教会の牧師を引退するとき、訪ねてくださった 105 歳で亡くなるまで現役を守られた日野原重明先生が教えてくださった「上手な年のとり方」を覚えていたからです。日野原先生流「上手な年のとり方」は第一に新しいことを始める、第二にお手本になる人を見つける、第三に少し位は我慢する。

「もう歳だから・・・」と言いそうになるとき、上手に年取る方法の第一「新しいことをする」を思いだし、励まされ、「やって見ようか・・・」と楽しんでます。もし、あなたも迷う時があれば、日野原流「上手な年の取り方」を試して見てください。

カフェ・チャペルはプレオープンで一月を迎え、毎週、おいしいコーヒー、人との出会い、ホッとする会話を楽しんでます。アローハ！で歓迎します。

2020 年 10 月 26 日

「これぞ聖なる十戒」 藤井 由美子

10 月 11 日の礼拝で前奏曲として弾かせていただいたのは J. C. バッハの作曲した「これぞ聖なる十戒」でした。

J. C. バッハ(ヨハン・クリストフ・バッハ)は音楽室に飾ってあるかつらを被ったおなじみの写真の大バッハ・J. S. バッハ(ヨハン・セバスティアン・バッハ)ではなく、彼の親族の一人です。

イスラエルの人々が奴隷生活を強いられていたエジプトから神様に選ばれたモーセに導かれ約束の地カナンを目指す旅の途中に神様が大切な 10 の戒めを石の板に自ら刻まれました。

そのことをテーマにしたこの曲は同じ音が 5 回続くメロディーが右手、左手、足鍵盤と順番に 5 回出てきま



す。同じ音が続くのは石の板に神様のみことば、十戒が刻まれることを表しています。そしてそのメロディーが5回もあちこちに繰り返してくるのは神様が自ら刻まれたこと、またその内容がとても大切であることを作曲者が伝えたいのです。わたしは10年ほど前にパイプオルガンを習い始めた時にこの曲を最初に学び、上のような説明を先生から受けた時すごく感動しました。楽譜を通して作曲者が演奏者に聖書のメッセージを送り、それを

演奏者が聴く方たちにお伝えすることができる。私も聴いてくださる皆さんにこの感動をお伝えしたいと心から思いました。

初心を忘れずにオルガンを通して神様を讃え、聖書のメッセージをお伝えして皆様と神様の愛を分かち合いたいと心から願っています。だから、きょうも練習頑張ります！

十戒 旧約聖書 出エジプト記 20章

あなたはわたし以外に、ほかの神々があってはならない。

あなたは自分のために偶像を造ってはならない。

あなたは、あなたの神、主の名をみだりに口にしてはならない。

安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。

あなたの父と母を敬え。

殺してはならない。

姦淫してはならない。

盗んではならない。

あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。

あなたの隣人の家を欲してはならない。

2020年10月19日

「席、あります」 山里将之



みなさんこんにちは。

貝塚聖書教会の山里です。

阪南バイブルチャペルの礼拝に向かう時には、時間調整もかねて、チャペルのすぐ近くにあるファミリーレストランでモーニングメニューを頂く事が多いです。8:00開店のそのお店は、日本全国どこでも見かけられる某有名チェーン店。ご近所の皆さんも、ご愛用なさってるのではないのでしょうか。日曜日の朝に、ひとりで目玉焼きのモーニングを頼んでいるスーツ姿の人を見かけたら、それは私かも知れません。

ところがある日曜日、いつもはすいている時間帯のはずが、その日は何か近くでイベントでもあったのか、結構なお客さんの数。8:30にはお店を出たかったので、探せばあいてる席もいくつかありましたが、オーダーが立て込んで時間がかかりそうなのは目に見えていました。その日は断念、近くのコンビニに立ち寄って、コーヒーだけを買って、チャペルに向かいました。

満員御礼というのは、お店側にとってはありがたい、感謝な話。でも、見方を変えてお客さん側の視点に立ってみると、場合によっては私みたいに、ちょっとおなかをすかせる事になるかも知れないなあ、とふと思わされました。

席がある。居場所がある。ゆっくりそこに居て良い場所がある。ファミリーレストランに限らず、そういう自分なりの「居場所」に恵まれていると、心にゆとりが生まれ、人生を楽しく過ごすチャンスが増えてきますよね。阪南バイブルチャペルや、阪南バイブルチャペルを生み出した貝塚聖書教会にも、新しくお訪ね下さる方々がほっとできる雰囲気、空間が形づくられると良いな、と願っています。

おかげさまで、阪南バイブルチャペルもだいぶにぎやかになって来ました。それでもまだ、満員御礼ではありませんので、ご安心しておでかけ下さい。…ソーシャルディスタンスは確保出来ています(笑)…。

2020年10月12日

倍返し、100倍返し、1000倍返し 藤井 貴

9月27日に人気番組「半沢直樹」が終了しました。ご存知のとおり、上記は不正に立ち向かう半沢直樹の言葉です。

さて話は変わりますが、リタイアした後始めたいと思ったことのひとつは「晴耕雨読」です。「雨読」の方は、現役時代時間をかけて十分読めなかった聖書をじっくり読むこと、「晴耕」の方は、これまで経験していなかった野菜の自給です。そのため、家庭菜園を学ぶコースをひとつ受講し、今年は大阪府高齢者大学の「家庭園芸を楽しむ科」に通っています。一方、実際に野菜づくりをするため、日根野にある貸し農園を昨年度からお借りして、野菜づくりを始めました。その貸し農園は有機栽培のSOFIX農園として、土づくりを行っており、その土の力にも期待しつつ栽培を行なっています。野菜の成長を左右するのは窒素、りん、カリウム等の肥料ですが、2年目の今年は肥料の量は同じでも、同じ収穫を得ることができませんでした。理由は緊急事態宣言の発令により貸し農園になかなか行けず、植える時期が遅れたこと、梅雨の雨量と期間が長かったこと等が考えられますが、人間がコントロールできることに限界があることをつくづく思い知らされました。自然を含め、全宇宙をコントロールされる神を覚えさせられました。

“私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。”（コリント人への手紙 第一 3章 6節）

さて、聖書のルカの福音書に、

“また、別の種は良い地に落ち、生長して百倍の実を結んだ。”イエスはこれらのことを話しながら、大声で言われた。**“聞く耳のある者は聞きなさい。”**（ルカの福音書 8章 8節）

と書かれています。そしてそのすぐ後で、イエス様はこの「良い地」を解説して、

“しかし、良い地に落ちたものとは、こういう人たちのことです。彼らは立派な良い心でみことばを聞いて、それをしっかり守り、忍耐して実を結びます。”（ルカの福音書 8章 15節）

と書かれています。この箇所では「種」は福音、すなわち、イエス様が私たちに語られた聖書のことば、「地」はそのことばを聞く私たちです。8節から15節の間には今回は省略しましたが、悪い地、すなわち、悪い

見本が示されていますが、それに続き 15 節で、良い地とは「立派な良い心でみことばを聞いて、それをしっかり守り、忍耐」する人と言われています。そういう人が 100 倍の実を結ぶ、すなわち、神様から 100 倍返ししてもらえるのです。

2020 年 10 月 05 日

.....

クリスチャン作家 三浦綾子 —『氷点』が誕生するまで— 辻 喜男

三浦綾子の生涯は、作家としての後半生もそれ以前の前半生も一つの奇跡といわれています。

三浦綾子の作家としての第一歩は、1963 年(昭和 38 年)の元旦、三浦光世、綾子夫妻が新年の挨拶のため綾子の実家を訪れ、そこで朝日新聞の「一千万円懸賞小説募集」の社告を見たことから始まったとされています。

当時自宅で開業していた雑貨店の閉店後、毎晩執筆をし、その年の 12 月 31 日、ようやく『氷点』を書き上げ、締切日ぎりぎりの消印を確認して東京に発送しました。

翌年(1964 年)7 月に一位入選が決まり、一千万円の賞金を獲得するとともに、11 月から一年間、朝日新聞朝刊に連載されました。その後単行本の出版、テレビ、映画のドラマ化と、一大『氷点』ブームが起りました。

まったく無名の一主婦が、40 歳を過ぎてからの作家デビューでしたので、日本全国が三浦綾子の出現に驚きました。しかし彼女の前半生にはもっと驚くべき出来事がありました。

三浦(旧姓・堀田)綾子は 1922 年北海道旭川市で生まれ、1939 年 17 歳で高等女学校を卒業して、小学校の代用教員となりました。教員となった綾子は 1941 年から始まった戦争の中、軍国教育を熱心に行いました。しかし敗戦とともに社会が変わり、大きな絶望に陥り、1946 年小学校を退職しました。その直後肺結核を発症し、さらにその後脊椎カリエスと診断され、13 年間にわたる闘病生活を経験することになります。その闘病中、綾子は幼馴染のクリスチャン前川正に出会うことにより、キリストの救いを受け入れました。しかし間もなく前川正が肺結核で亡くなり、絶望に陥っている中、綾子の前にクリスチャンの三浦光世が訪問してきました。光世の祈りに支えられ、綾子の病も回復に向かい、1959 年、二人は結婚に導かれます。当時光世は、営林局に勤め、綾子は自宅で雑貨店を開業していました。そんな時二人は、1963 年の元旦に朝日新聞の社告を目にすることになったのです。

三浦綾子は 1999 年に召天するまで多くの病と闘いながら、80 冊以上の作品を書き上げ、作家としての地位を確立していきました。三浦綾子の作品を通して、自殺を思いとどまった人、人生を変えられた人、生きる元気が湧いた人は数え切れません。若い時に読んだ経験のある方も、まだ読んだことのない方も、三浦綾子の作品をぜひ一度読んでみてください。阪南市立図書館には『三浦綾子全集』の全巻が揃っています。

2020 年 09 月 28 日

.....

カフェ・チャペル、オープン 黒田 朔

学生時代、今から半世紀以上前のことである。音楽喫茶というのが流行った。心齋橋筋にある大変落ち着いた店でコーヒー一杯がいくらであったか覚えていないが、店の名前は確か「雅宴」と言った。クラシッ

クをリクエストし、順番が来て、聞き終わるまで少なくとも2時間くらいは心地よい空気の中で過ごすことができた。コーヒーもおいしく、音楽も心地よいが目的はそこで過ごす時間であった。当時、コンピューターはもちろんコピー機さえない時代、試験の時はもっぱらノート写しに、又、時にはダベリングに通ったものである。

9月にカフェ・チャペルがオープンした。焙煎から準備したコーヒーが100円で、しかも、お代わり自由というのだから、悪くはない。現に2杯でも3杯でも遠慮なしではある。しかし、カフェ・チャペルの売りはそこでの時間である。話したい誰かと一緒に入ってみるもよし、また、話したい気分の時に一人、入ってみるもよし。

カフェ・チャペルを出るときは予期しなかったさわやかな気持ちになってもらう…これがカフェ・チャペル、オープンの目的だ。音楽喫茶のような豪華な照明やソファはないが、明るく、親しみやすさに満ちた居場所の準備ができています。お奨めは電話予約をくださること、勿論、お一人での飛び込み、大歓迎。お迎えするものも話の輪に加えてもらえれば盛り上がり間違いなし。お待ちしております。

毎週土曜日2:00pm より(2020年9月現在)

電話 阪南バイブルチャペル 080-8182-2504

2020年09月21日

.....

良い知らせが、海の向こうから...



皆さんこんにちは。貝塚聖書教会の山里です。阪南市にお住まいの皆様でしたらもう良くご存知かと思いますが、この夏、泉南ロングパークという素敵な公園がオープンしました。イメージしたのは、沖縄でしょうか、それともハワイでしょうか、とにかくちょっとしたリゾートのような雰囲気、おなじみのシアトル系の某有名カフェや、お手頃なレストランなどもあり、公園というより新しい観光スポットといった感じです。私は出身が沖縄なものですから、こういう風景をながめながら海風に心を漂わせていると、なんだか懐かしいような、ふるさと

とに帰ったような錯覚にもなり、楽しんでます。

もちろん公園なので遊具もあつたり、またバスケットコートやスケボーリンクもあるので、いろんな年齢層の方々に賑わっていて、うちの子どもたちもとても気に入っています。

海の向こうには関空。飛行機の離陸・着陸を眺めるのもまた楽しいところ。さすがにコロナの影響か、ころなしか便数が少なく感じられるのですが、ゆったりと飛び立つ飛行機を見て、遠くに行ってみたいなあ、と想像したりします。...今は難しいですが...

思えば、私たちの住むこの国、日本に、キリスト教が伝えられ、聖書が伝えられ、日本語に翻訳もされて、私たちの手元に届けられているのも、かつてこの国を目指して旅をして来た人々のおかげだな、としみじみ感じます。宣教師、という方々ですよね。日本には、欧米経由、特に戦後はアメリカから多くの宣教師たちがイエス・キリストのよき知らせ...福音と言います...を届けてくれました。阪南バイブルチャペル、貝塚聖書教会が所属する、福音交友会(ふくいんこうゆうかい)も、ハワイからやってきた3人の宣教師たち...みんな女性!...の尽力で、今のこの関西の地に14の教会(阪南バイブルチャペルを加えると15)が建てられました。

海の向こうから、私たちのために、たくさんの恵みを届けてくれた宣教師たち。昔は船で。今では飛行機で。さらに、IT が発達してきた現在ではインターネットも活用して。今日も良い知らせが届けられています。もしあなたも、泉南ロングパークに出かけたり、海が見える素敵な景色を眺めたり、どこか遠くへ旅行に出かけたりする機会があれば・・・コロナには十分気をつけて・・・かつて、海の向こうから良い知らせを届けにやって来た先人たちに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。そして、今、あなたも、その良い知らせを聞いてみたいと感じてくれたら、とてもうれしく思います。

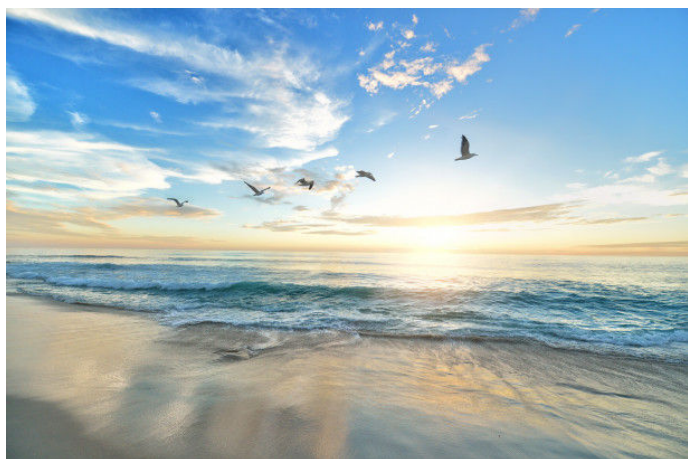
聖書 ローマ人への手紙 10章 15節(抜粋)「・・・なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は・・・」

* 写真 泉南ロングパーク ビーチサイドから。

2020年09月14日

.....

デュアラー 藤井貴



前回チャペルの窓を担当したとき、結婚後に阪南市に居住したと書きました。1983年4月でしたので37年以上になります。しかし、2011年からは大阪市にも住む、所謂「デュアラー」として生活しています。

従来は、豪華な別荘が持てる富裕層や、時間に余裕があるリタイア組が楽しむものだというイメージがあったデュアルライフ(二拠点生活)ですが(勿論私とはほど遠いですが)、最近では、若い世代を中心に、趣味満喫デュアラー、自然癒されデュアラー、

ふるさとデュアラー、プレ移住デュアラー、のびのび子育てデュアラー、地域貢献デュアラー等、その目的は多岐にわたっているようです。

(出典：https://recruit-holdings.co.jp/newsroom/pdf/20181217_11.pdf)

私個人は、違った目的を持った働きや生活ができる、気持ちの切り替えができる、等のメリットを楽しんでいます。

“しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。”(ピリピ人への手紙 3章 20節)

一方、国レベルでは国籍があり、国籍はデュアルには与えられません。しかし、天にも国籍があると言われています。そして、主イエスが発行して下さる天の御国のパスポートがあり、そのパスポートには次のように書いてあります。

「この人は私に属する者です。この人は今や私のものです。私が十字架の死をもって、この人を罪の中から贖い出し、私のものとししました。私はこの人を決して見捨てず、どんなことがあってもこの人を守ります」。また、この国籍は死んだ後だけでなく、イエスを信じたときから与えられると言われています。

2020年09月07日

.....

「進歩」と「調和」の50年 辻 喜男

今年(2020年)私たち夫婦は金婚式を迎えます。50年前の1970年は大阪万博の年で、大阪のみならず日本全体が、万博のテーマであった「人類の進歩と調和」に期待して沸き立っていました。この50年で大いに「進歩」したものがたくさんありますが、なかでも通信手段の変化は驚くべきものがあります。万博会場で初めて、片手で持てるワイヤレスホンが登場しました。

コンパニオンがかっこよく使っている姿に未来を見ました。それが今や、大人から子どもまで“スマホ”という通信手段を手にしてしています。私たち夫婦も、これはありがたいと思って、“かけホ”に切り換えました。よく考えれば、あまり長く通話をする相手がいないことに気がつきました。さてこの50年で、「進歩」に見合った「調和」があったのでしょうか。便利になった通信手段を使って生活は大きく変わりました。しかし、高齢者に対するだましと、他人に対する暴言や中傷が横行しています。

人々の欲望やわがままが、神との平和を失くしていることに気付いて、「進歩」に見合った神との「調和」がもたらされることを願います。ところで、私たち夫婦の50年にわたる「進歩」と「調和」はどうだったのでしょうか。結婚式は教会で行ない、次のように神と人との前で約束しました。「あなたは神の教えに従って、夫(妻)としての分を果たし、常に妻(夫)を愛し、敬い、慰め、助けて変わることなく、健康な時も、病の時も、富めるときも貧しい時も、いのちの日の限り、あなたの妻(夫)に対して、堅く節操を守ることを約束しますか。」

50年間色々ありましたが、子や孫の代も、クリスチャンであり続けることの幸いをかみしめています。次は、2025年の大阪関西万博(テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」)を目ざして、今後もともに愛し、敬い、慰め、助け合いながら輝くいのちを生きて、神の約束しておられる天国に向かって歩いていきたいと願っています。

2020年08月31日

.....

なんとかなるさ 黒田 朔



まだ8月、それもコロナ禍と猛暑の真ただ中。今、阪南バイブルチャペルに引っ越して半年を迎え、家内の脳内出血の術後の健康、カリフォルニアやハワイでまともにコロナの影響を受けている息子、娘たち、80歳を迎えた今後の暮らしなど心配の材料なら山ほどある。こんな時に思い出す言葉がある。苦しくてどうしようもない時、いつもかんでくることばがあった 神様がいるんだもの

なんとかなるさ .. そしていつも なんとかなった

念願の中学の体操の先生になって数か月目に起きた事故で首から下が完全麻痺、今はもう70歳を超

えた星野富弘さんは怪我を通してクリスチャンとなり、口にくわえた絵筆で描く画と詩をとおして人々を励ます人生を生きている。怪我が治ったというのではない、心配がないというのでは、勿論、ない。それでも、「神様がいるんだものなんとかなるさ」と現実を受けとめ、「そしていつもなんとかなった」とうろたえずに生きている..これがキリストの約束を信じる姿で、悪くない。

星野さんを支えているのは変わる事のない聖書の約束。

「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」（ イエス・キリスト マタイ 11:28 ）

2020年08月24日

.....

教会キャンプにもIT化の波・・・



皆さんこんにちは。貝塚聖書教会の牧師、山里将之です。

今年は新型コロナの影響の中、短い夏休みとなつてしまいましたが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

キリスト教会では、夏休みなどの長期休暇にキャンプを行う教会も少なくありません。キャンプとは言っても、野外でテントを張る、いわゆるアウトドアキャンプとはちがって、自然の家などの施設で3泊ほど

して、寝食をともにしながら聖書を学び、野外活動やスポーツなどをして楽しむ、といった感じで過ごします。イメージとしては合宿に近いでしょうか。たがいに親密になり、楽しい思い出にもなる貴重なひとときです。

ところが、今年はコロナの問題で、寝泊まりどころか集まって食事をするという事もなかなか難しくなつて来てしまいました。私は阪南パイプルチャペルや貝塚聖書教会が所属している団体、福音交友会の中高校生キャンプを担当している者のひとりですが、残念なことに、2020年は3月の春キャンプ、そして8月の夏キャンプものきなみ中止。キャンプを楽しみにしている中高生たちやキャンプを企画・運営するスタッフたち、またキャンプを通して子どもたちの信仰が成長する事を願っている親御さんたち、多くの方々にとって、なんだかさみしい1年となってしまいました。

なんとかして皆を元気づけたい。スタッフの何名かが声をあげ、試行錯誤・暗中模索を繰り返し、インターネットを使ってオンラインキャンプをしよう、と企画してくれました。8/12(水)、13(木)の2日間、Zoomというオンライン会議ソフトを使って、「キャンプ atOnline」という名前で開催。中高生、スタッフあわせて二十数名で、楽しく聖書を学び、レクリエーションを楽しみました。「今度はリアルに会いたいね」。「そのためにも、コロナが早く解決しますように」。教会らしく、最後はみんなでお祈り。

それにしても・・・いやはや、時代ですね。コロナの問題は大変ですが、これをきっかけに、YouTubeLiveでのオンライン礼拝が始まりました。そして今回はオンラインでの中高生キャンプ・・・。教会といえば、パイプオルガンやステンドグラス、静かにお祈りするところ、そんなイメージが一般的だった時代から、今では牧師もITを活用。神様は不思議と、問題の中にも、何か新しい発見や気づきを与えて下さいますね。皆さんも、神様の不思議な導きの中で、コロナから護られることはもちろん、様々な問題の中にも何か素晴らしいものを用意して下さる神様の恵みに出会うことができますように。

※写真: パソコン片手に聖書を開き、お茶を頂きながら・・・

2020年08月17日

身近な讃美歌 藤井由美子



阪南市では9時、12時、15時に市内放送で「♪ キンコン
カンコン キンコンカンコン」と皆さ

まがよくご存じの、あの学校のチャイムが鳴ります。

阪南バイブルチャペルの礼拝は毎週日曜日9時からなので、チャイムの音が鳴り始めると礼拝が始まります。

学生時代に授業中あの「♪ キンコンカンコン～」を待ちわびたご経験あると思います。

(私は勿論有ります。)

この「学校のチャイム」はロンドンにある、ウェストミンスター

一宮殿(イギリスの国会議事堂)

のビッグベンの愛称で知られる時計塔が毎日正午に奏でるメロディーを原曲にしているのをご存知ですか？

そして、このウェストミンスターの鐘のメロディーにはいくつかの聖書からの歌詞が付いています。だから讃美歌とも言えるんです。

ビッグベンの時計室の壁には旧約聖書の中の申命記を踏まえた歌詞が書かれています。

All through this hour

Lord, be my guide

And by Thy power

No foot shall slide

全ての時を通して

主よ、導きたまえ

あなたの御力によって

迷いは消え去る

また一般的に広まっている歌詞は

O Lord our God

Be Thou our guide

That by thy help (So by thy power)

No foot may slide

主よ、私たちの神

私たちの導き手

あなたの助けによって (あなたの力で)

迷いは消える

日本語訳はちょっと字余りですが、確かにあのメロディーに合わせて歌えます。

このように実は「♪キンコンカンコン～」は時を告げる合図だけでなく、聖書の言葉からの祈りの言葉でもあるんです。

このビッグベンの鐘の音に感動した人はたくさんいるようですが、フランスのノートルダム寺院のオルガン奏楽者だったルイ・ヴィエルヌも鐘の音を聴いて「ウェストミンスター」の鐘」という素晴らしいパイプオルガン曲を作曲しています。この曲は「♪キンコンカンコン～」のメロディーが繰り返し何度も出てくるとも華やかでビッグベンの鐘を聞いているような気持ちになります。

ルイ・ヴィエルヌは視力が弱かったのでより一層鐘の音が心に響いたのではないのでしょうか。

それがなぜ日本での始業、終業チャイムとして使われるようになったのでしょうか？

諸説があるようです。

1950年代東京都大田区大森第4中学で授業開始終了のベルがよく故障したため国語の教師が従弟の技術者に依頼して新たなチャイムとしてオルゴールなどでよく知られていた「ウェストミンスターの鐘」のメロディーが採用されその後全国の学校のチャイムとして普及していった。

2 広島の産業機器メーカーの技術者が当時イギリスのBBC放送のラジオ放送を聴いて「ウェストミンスターの鐘」が流れていて単純でオルゴールにしやすかったのでオルゴールに拡声器を付けて学校に納入した。

いずれも戦争中のサイレンのイメージを払拭するため、単純で優しいメロディーが選ばれたのかもしれない。などです。

このように身近なところに実は讚美歌だったという曲は結構あるんです。また機会があればご紹介できればと思います。

2020年08月10日

川柳で人間模様 辻 スミ子

教会は家族のような人たちの集まりです。

川柳とは、人間の心、自分自身の内側を詠む文芸。家族や社会を風刺しつつも、「そうそう」、「ああウチも！」と声が出る。決して他人を批判、中傷したり、ダジャレ、語呂合わせではないのです。5-7-5の17音に凝縮された、本音、共感、ユーモアに、読むとなぜかホッコリ。あなたも作ってみませんか。

～毎日の心の声を五七五～

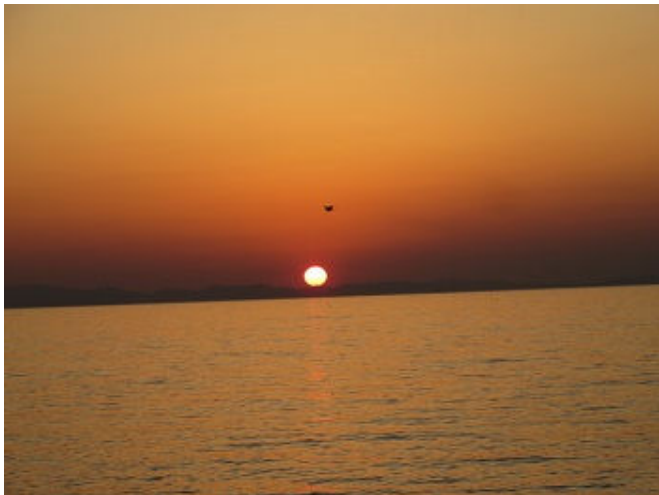
まずは、題「夫婦」（すみません作者はちょっと高齢者）

- ☆居てほしい重い荷物を運ぶとき
- ☆手をつなぐ転ばぬさきの杖となり
- ☆アレスレで夫婦の会話通じ合う
- ☆夫婦だって別人だもの食い違い
- ☆弱点は互いにカバーして夫婦

聖書には、『箴言』、『伝道者の書』という短い言葉で人間の姿や生活について語る知恵の言葉があります。

「二人は一人よりもまさっている。二人の労苦には、良い報いがあるからだ。」旧約聖書(伝道者の書 4:9)
「乾いたパンが一切れあって平穩なのは、ごちそうと争いに満ちた家にまさる。」旧約聖書(箴言 17:1)

2020年08月03日



今年の5月、尾崎に引っ越し、リタイア生活に入って丸4か月。リタイア生活を豊かに過ごそうと願っています。

リタイア生活の先輩の皆さんの経験や工夫、アドバイスを聞かせていただけるとありがたいです。

子供のころ、箱作に住み、電車通学で鳥取中学を卒業した私は今年80歳。中学時代に親しんだ町並みを自転車で走りながら、もっと広くにぎやかだった尾崎駅前、町役場を越えてもっと遠かった海岸、波が打ち寄せていた浜などを思い出し、その変化に時の流れを感じています。

街並みも一通り巡り終わって驚くのは、一日、一日が過ぎてゆくその速さです。2階への階段を上りながら、「アレッ、朝飲む薬を飲んだのは昨日だったかな？」

そんなリタイア生活を少しでも豊かに健康で過ごしたいと努めていることが二つあります。一つ目は毎日、と言っても、週四日ですが、夕方5時から6時、夫婦でそろってサンエス温水プールに泳ぎに行きます。回数券を買くと65歳以上は三千元で十一枚の回数券があり、それほど混雑もせず快適です。さっぱりして帰ると夕食です。健康管理と一日にメリハリがつき、一挙両得です。

二つ目は毎週、日曜日、開設間なしの阪南バイブルチャペルに参加します。雑用に流される日々の中で立ち止まって自分を振り返り、人との出会いを通して人生の仕上げや次の週の心の身支度をしています。「ピンピン、コロリが残された楽しみ」とは冗談にしてもさみしい言葉、リタイア生活の豊かさを求めて100歳人生を生きたいと願っています。

2020年07月28日

なんで貝塚の牧師さんが？ 山里 将之



皆さんこんにちは！ 私は貝塚聖書教会という教会で牧師をしています。

「なんで貝塚の牧師さんが？」阪南バイブルチャペルのいわば「親」教会にあたるのが貝塚聖書教会。それでその教会の牧師の私が、阪南市尾崎町にも足繁く通わせて頂いていますが、地元の皆さんにとってはいわば新参者。阪南のこと、いいとこ、おいしいお店、皆さんからいろいろ教えてもらえると嬉しいと思い、楽しみにしています。どうぞよろしくお祈りします。

いいお店をさがす時、「このカフェどうかな？」「このレストランおいしいかな？」と期待しつつ、お店の窓からのぞき込むのではないのでしょうか。最近ではインターネットもスマホでできるようになって、ずいぶん便利になりましたが、最終的にはやっぱり実際にそのお店に行ってみて、入ろうかどうか決めると思います。同じように、この「チャペルの窓」から、阪南バイブルチャペルの魅力が伝わるような情報発信ができ、もちろん、実際に訪れてみて、「いい教会だな」と感じ

てもらえる教会づくりができれば、と願っています。

普通のお店がそうであるように、いい「品物」があって、訪れる人々の笑顔があると、「このお店、入ってみたいな」と思いますよね。変な表現なんですけど、教会の「品物」は何でしょうか…。聖書から教えられる、神様の喜び。その恵みを味わう人々の喜び。そして、もし思いがけずあなたが「窓」をのぞき込んだ時に、「ひよっとするとここには本当の喜びがあるかも知れないな」と感じてもらえれば、それは私たちにとっても、何よりの喜びです。

喜びを届けられるチャペルを目指して、私たちも励んでいきたいと思っています。どうぞよろしくおねがいします！

申命記 12 章 7 節

「そこであなたがたは家族の者とともに、あなたがたの神、主の前で食事をし、あなたの神、主が祝福してくださった、あなたがたのすべての手のわざを喜び楽しみなさい。」

2020 年 07 月 20 日

.....

チャペルの窓 藤井 貴

チャペルの窓をご覧いただきありがとうございます。このコラムは 3 人の牧師と 1 人の信徒(筆者)が交替で担当しています。

私は岬町淡輪で育ち、結婚後は阪南市に住み、昨年会社生活を卒業(定年退職)しました。それとほぼ同時期に、阪南バイブルチャペルが開設され、親教会である貝塚聖書教会から異動してきました。ホームページのメニューの「教会は初めてという方に」ありますように、2003 年から阪南市のサラダホールで集会を開始し、16 年後にようやく教会が誕生したことになります。実はその約 30 年前の大学生の頃に、将来阪南市に教会ができればという思いが与えられました。そして、その時からこの思いを少しずつ神様に祈ってきました。

“あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。” 詩篇 37 篇 5 節

阪南バイブルチャペルは誕生して間もない教会ですが、ひとりひとりが聖書から教えられ、お互いに成長していけるような教会でありたいと願っています。こらからもよろしく願いいたします。そして、このホームページともお付き合いください。

2020 年 07 月 13 日

.....

天の故郷を目ざして 辻 善男

私の故郷は大阪府最南端に位置する岬町です。そこで結婚まで過ごし、結婚後は現在の阪南市舞地区に住むようになりました。岬町と阪南市は共に大阪湾に面し、後方には和泉山脈が控えている隣町です。山と海に囲まれ、その恵みを受けて育った者が、高齢期になった今、昔と同じ環境で過ごせることは幸せです。

家の近くにある小学校は、海拔約七十Mの高台に建っています。そこから見える海の眺めは最高です。特に夕陽が対岸に沈む瞬間の輝きは、人生の最後の時を迎えた人間に希望を与えてくれます。

聖書には「私たちの国籍は天にある。」と書いてあります。私たちのいのちは、死で終わるのではなく、

その行き先がはっきりしていることが分かります。またそこでは、「もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しきもない。以前のものが過ぎ去ったからである。」とも記されています。私たちには、地上の故郷と共に、もう一つの故郷—天の故郷が用意されているのです。地上の故郷では、喜びも悲しみも苦しきも、多くを経験します。しかし天の故郷では、それらすべてを神が引き受けてくださいます。

そして聖書は、「**すべて疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。**」(マタイの福音書 11:28)と、だれもが天の故郷に招かれていることを語っています。

2020年07月06日